



®環境省

エコアクション21

認証番号 0004884

沼津中央自動車株式会社 環境経営レポート

2024年度

対象期間 2024年1月1日～2024年12月31日
発行日 2025年1月31日



人・車・地域の未来をサポート

www.numazu-chuo.com



環境経営レポート

はじめに	1
環境経営方針	4
1.組織の概要	5
2.対象範囲	5
3.組織図	6
4.環境経営目標	7
5.環境経営目標の結果とその評価	8
6.環境経営計画の結果とその評価、次年度計画	10
7.社員の教育・訓練の実施	12
8.緊急事態の想定及び対応・訓練結果	13
9.環境関連法規等の取りまとめ	14

沼津中央自動車の環境への取り組み事例

① 二酸化炭素排出量の削減	15
② 廃棄物排出量の削減	16
③ 水使用量の削減(節水の取組)	18
④ 法定点検の入庫促進	19
⑤ 自動車リサイクル部品使用の促進	19
⑥ その他の取組み事項	21
良好な労働環境の整備に関する取組み	22
エコ整備への取組み	23

表彰・受賞

表彰	26
第1回「整備事業者アワード2022」受賞	27

コミュニケーション活動と社会貢献活動

コミュニケーション活動	28
ボランティア活動・社外活動	29

メディア掲載

自動車整備事業場用 環境家計簿システム パンフレット	30
グリーン自動車整備事業場静岡県推進協議会 パンフレット	30

代表者による全体評価と見直し・指示

SDGs行動宣言

沼津中央自動車株式会社 SDGs行動宣言	32
沼津市SDGs推進パートナー登録証	34
SDGs達成に向けたチェックシート	35

LOTAS TOWN NEWS インタビュー記事	40
--------------------------	----



はじめに

当社で「環境の取り組み」を始めたきっかけは、自動車販売整備業界の全日本ロータス同友会静岡県支部が始めた「エコキャップ回収運動」に参加した事からです。エコキャップの回収も「エコ」に関心があったのでなく、「ポリオワクチンを届ける」の文字にひきつけられました。

実際にエコキャップの回収を始めてみると、何のために回収活動をするのかの意義を社内で話さなければなりません。その際に、私たちの会社の「エコ」に関する取り組みを考えることが必要であると感じました。

その後、沼津市で「エコアクション 21」の説明会があることを聞き、参加したことが現在の活動に繋がっています。一人ひとりの活動は小さなことでも、何らかの関わりのある方々に、それを伝えることが出来れば大きな活動になると思い、取り組みのレポートをコミュニケーションツールにすることにしました。

このレポートを自社の「発信ツールとしてもっと成長させたい」、そんな想いでこのレポートを綴っています。

また、当社の所在地である「沼津市」は、環境を大切にしようという意識を先人から引き継ぎ、長く持ち続けている町です。

昭和 50 年にゴミの収集に関して、全国に先駆けて「燃えるゴミ」「埋め立てゴミ」「資源ゴミ」の 3 種類に分別収集する「沼津方式」と呼ばれるシステムを、行政・自治会・市民の力で作り上げました。

それ以前は、家庭や企業から出されるゴミの処分についての意識が薄く、収集されるゴミ袋には燃えるゴミ・燃えないゴミも混じって入れられ、ゴミの中には資源として再利用できるものがある事の意識など無いに等しい状況だったようです。

しかし、ゴミの収集から処分に至るコストの問題、ゴミ焼却場・埋立地の不足の問題などを含めて、行政や心ある市民の皆さんから積極的・前向きに考えていく意見が出されるようになったと聞いています。

「沼津方式」のゴミ分別収集は、市民全員の参加がなければ成り立ちません。単に焼却できるゴミとビニール類は分けて別の回収日にゴミの収集場所に出されます。ビニール類は汚れていれば洗って汚れを落とし収集場へ出します。資源として再生できるごみの収集日は、前日から地域の方々が新聞・古雑誌・ダンボール・古着・洗浄したビン缶・洗浄したペットボトル・金属類など、市の収集車が回収しやすいように仕分する作業をします。埋め立てや再資源化できないゴミも細かく分けて収集場所に出します。その全てを市民の手仕事で行います。

「沼津の自然を守りたい。沼津の環境を守りたい。」

沼津市民のゴミの収集に関する対応と活動には長い歴史があり、この町で生活し仕事をする私たちも、企業活動の中に確実な「環境意識」を持続ける必要性を感じています。

私たちには身近な課題として「水の大切さを考えること」「廃棄物の処理の方法を考えること」を実践していく必要性があります。合わせて最近の気候の温暖化などに関心を持ち「二酸化炭素の排出量を減らす努力」もしていきます。その為に「エコアクション21」の認証と登録の活動を通じて社内で自らの行動を確認していきたいと思っています。

環境への関心を持ち、その活動をし、結果を世間に公表する。
私たちのような「小さな会社」でもできる一歩から……



沼津市の市街地を流れ、駿河湾まで注ぐ一級河川の狩野川



当社敷地内にある自噴する井戸の様子

当社の環境の取組の原点は「エコキャップの回収活動」

飲み終わったペットボトルを処分するときに、キャップを外してポケットに入れる。それをまとめてキャップの回収ボックスに入れる。ただそれだけの行為で世界中には「助けられる人」がいる。豊かな国になった日本で生活していると、気づくこともない生活弱者は世界には多く存在する。

子供たちの病気の治療、感染症の撲滅が趣旨の「エコキャップの回収活動」に参加したことから、当社の環境に関する取組みが始まりました。

エコキャップ回収運動はペットボトルのキャップの回収をして、環境、資源、福祉などの分野に、誰でも参加でき社会貢献ができる活動です。

ペットボトルのキャップを、ペットボトルと一緒にごみとして扱うと、小さなキャップでも焼却されるとCO₂の発生源になり、土に埋まってしまうと土壌汚染につながり、川に流れればマイクロプラスチックの発生につながり、地球の環境を汚す事になります。ボトルキャップを分別回収することで、再資源化を意識し促進し、CO₂発生の抑制も意識でき、そしてキャップの売却益で世界の子どもたちにワクチンを届けることが出来ます。

ペットボトルキャップの回収作業は、環境・資源・福祉の世界に参加することを実感できる窓口だと思っています。

環境の取り組みは、小さな取り組みの積み重ねをすることです。社員全員でキャップを外して持ち帰ることを徹底すること。それを周りの方々にも共感を得て、同じように活動していただくことを発信しています。



「SDGs の取組」

地球温暖化対策(脱炭素社会の実現)、国連SDGsの目指す「誰一人取り残すことのない持続可能な社会の実現」が、社会の共通の目標になってきています。

当社では広く取り組みの想いを社員全体で共有できるように、令和4年8月「SDGs行動宣言」を行いました。「エコアクション21」をしっかりと取り組むことと並行して、SDGs達成に向けたチェックシートを活用して、SDGsの実現につながる活動をしていきます。

当社ホームページでも SDGs の取組みを紹介しています。

SDGs の取組みはこちら！



沼津中央自動車株式会社

環境経営方針

人・車・地域の未来をサポート

環境理念

弊社は沼津市の市街地において自動車の販売と整備を行っています。この地域や地域住民の方々に対して環境にやさしい整備工場作りを目指します。

環境への取組は、自動車販売・整備に携わる事業者として最重要課題です。環境との共生・調和を課題として認識し二酸化炭素排出量、廃棄物排出量そして水使用量の削減に取り組みます。

また整備入庫車の排気ガス検査等を通しての二酸化炭素排出量の削減や、排出ガスの清浄化に取り組み、燃料消費率向上による二酸化炭素排出量の削減に努めます。

基本方針

弊社は、環境理念に基づき、環境との共生・調和を最重要課題として認識し、全従業員に周知し環境に配慮した活動に取り組みます。その為に以下の「基本方針」を定めます。

- ① 二酸化炭素排出量・削減の推進
- ② 廃棄物排出量・削減の推進
- ③ 水使用量・削減の推進
- ④ エコ整備の推進（お客様における二酸化炭素排出量の削減）
- ⑤ リサイクル活動による省資源化の推進
- ⑥ 環境活動レポートを公開し、社会とのより良いコミュニケーションを図ります
- ⑦ 全従業員に環境方針を周知し、全従業員参画による取組を目指します
- ⑧ 環境関連法規制等の遵守

改定2 2019年 1月 31日

改定1 2012年 1月 31日

制定 2009年 10月 1日

沼津中央自動車株式会社
代表取締役 今野 秀明

1 組織の概要

- (1) 事業者名 沼津中央自動車株式会社
代表者名 代表取締役 今野 秀明
-
- (2) 所在地 静岡県沼津市大岡二ッ谷町 1553-1
-
- (3) 電話番号 055-963-1061
-
- (4) URL <https://www.numazu-chuo.com/>
-
- (5) 事業の概要 自動車の整備及び販売
-
- (6) 事業の規模 社員数 : 20 名
対象事業所: 本社(事務所・ショールーム)
静岡県沼津市大岡二ッ谷町 1553-1
土地面積: 555㎡
整備工場
静岡県沼津市大岡二ッ谷町 1526-4
土地面積: 1902㎡(1572㎡ + 330㎡)



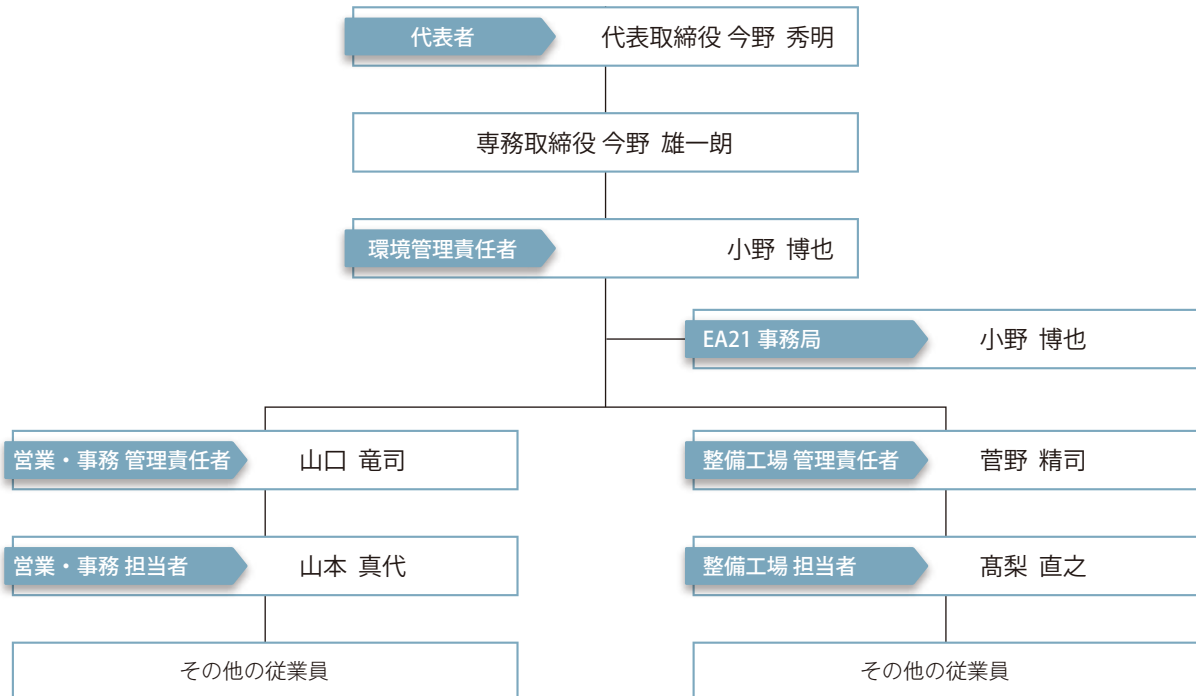
2 対象範囲

- (1) 認証・登録対象範囲 全組織 全活動
-
- (2) 事業年度 1月1日～12月31日
-
- (3) レポートの対象期間及び発行日 表紙に記載
-

3 組織図 エコアクション 21 取組み

2024 年 1 月 1 日

1 実施体制



2 関係者の権限と役割

代表者	1 環境経営全般に関する責任と権限 2 環境経営に必要な資源の準備 3 環境経営システム全体の評価と見直し 4 環境管理責任者の任命 5 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	1 環境経営システム全般の運用・管理 2 環境目標及び環境活動計画の作成 3 取組状況の代表者への報告 4 環境経営レポートの作成、配布・管理
EA21 事務局	1 環境負荷データ等の集計 2 環境目標・環境活動計画の進行管理 3 「環境負荷」及び「環境への取組」の自己チェックの実施 4 環境管理責任者への取組状況の報告 5 法規制の遵守状況の確認 6 文書・記録の管理
部門	1 部門の環境活動計画の実施 2 部門データの集計 3 部門の問題点把握と是正対策の実施 4 部門の従業員教育
その他の従業員	1 自分の役割を守り、エコアクション 21 活動を推進する。

4 環境経営目標

運用期間(2024 年 1 月～ 2024 年 12 月)の環境目標

項目		単位	基準期間	運用期間	
			2023 年 1 月～ 12 月	2024 年 1 月～ 12 月	
			基準値	削減率	目標値
内訳	二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	34,039	-1%	33,699
	購入電力	KW h	31,136	-1%	30,825
	ガソリン	L	8,128	-1%	8,047
	軽油	L	249	-1%	247
	灯油	L	200	-1%	198
廃棄物 排出量	一般廃棄物	Kg	2,050	-1%	2,030
	産業廃棄物	Kg	7,908	-1%	7,829
水使用量		m ³	211	-1%	209
自然環境に配慮した活動		件	3		3

備考 基準期間の電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株) 2020 年[0.441Kg-CO₂/KW h](調整後)を使用

- 自然環境に配慮した活動 1.法定点検の入庫促進 2.自動車リサイクル部品使用の促進 3.エコキャップ回収運動の促進

短期・中期の環境経営目標

環境目標は、2024 年度を基準年とした基準年比で示す

項目		単位	基準年度	削減率等		
			2024 年度	2025 年度 (-1%)	2026 年度 (-2%)	2027 年度 (-3%)
内訳	二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	39,373	38,979	38,586	38,192
	購入電力	KW h	46,160	45,698	45,237	44,775
	ガソリン	L	8,509	8,424	8,339	8,254
	軽油	L	439	435	430	426
	灯油	L	200	198	196	194
廃棄物 排出量	一般廃棄物	Kg	2,026	2,006	1,985	1,965
	産業廃棄物	Kg	8,578	8,492	8,406	8,321
水使用量		m ³	197	195	193	191
自然環境に配慮した活動		件	3	3	3	3

備考 基準期間の電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株) 2023 年[0.390Kg-CO₂/KW h](調整後)を使用

- 自然環境に配慮した活動 1.法定点検の入庫促進 2.自動車リサイクル部品使用の促進 3.エコキャップ回収運動の促進

5 環境経営目標の結果とその評価

運用期間(2024 年 1 月～2024 年 12 月)の環境目標

評価者 小野

評価日 2025 年 1 月 31 日

項目		単位	基準期間	運用期間						
			2023 年 1 月～12 月	2024 年 1 月～12 月						
			基準値	削減率	目標値	実績値	二酸化炭素 排出量	二酸化炭素 排出量割合	削減比率	評価
内訳	二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	34,039	-1%	33,699		39,373	100.0	17%	×
	購入電力	KW h	31,136	-1%	30,825	46,160	18,002	45.7	50%	×
	ガソリン	L	8,128	-1%	8,047	8,509	19,740	50.1	6%	×
	軽油	L	249	-1%	247	439	1,132	2.9	78%	×
	灯油	L	200	-1%	198	200	498	1.3	1%	○
廃棄物 排出量	一般廃棄物	Kg	2,050	-1%	2,030	2,026			0%	○
	産業廃棄物	Kg	7,908	-1%	7,829	8,578			10%	×
水使用量		m ³	211	-1%	209	197			-6%	○
自然環境に配慮した活動		件	3		3	3	—	—	—	○

備考

削減比率は、目標値に対する削減量の割合である 削減比率=(実績/目標-1)×100
基準期間の電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株)2023年[0.390Kg-CO₂/KW h](調整後)を使用

評価

- ▶ 二酸化炭素排出量総合計・購入電力・ガソリン・軽油・産業廃棄物が未達成でした
- ▶ 灯油・一般廃棄物排出量、水使用量は達成できました

原因分析・是正処置

二酸化炭素排出量	要因	購入電力・ガソリン・軽油の使用量増加により未達成でした
購入電力	要因	事務所・工場への防犯カメラ(8台)設置 工場へのエアコン(6台)設置 整備入庫台数(2023年7105台→2024年7351台) +246台 作業量の増加によるもの
	対策	事務所・工場 エアコンの設定温度管理の徹底 夏季 28℃ 冬季 20℃
ガソリン・軽油	要因	整備入庫台数(2023年7105台→2024年7351台) +246台の増加により代車への給油量増加 中古車販売台数(2023年59台→2024年101台) +42台の増加により納車時の給油量増加
	対策	代車貸出時 お客様に代車返却時使用分のガソリン補給のお願いの徹底
産業廃棄物	要因	整備入庫台数(2023年7105台→2024年7351台) +246台 作業量の増加によるもの

■ 次年度環境経営目標

運用期間(2025 年 1 月～2025 年 12 月)の環境目標

項目		単位	基準期間	運用期間	
			2024 年 1 月～12 月	2025 年 1 月～12 月	
			基準値	削減率	目標値
内訳	二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	39,373	-1%	38,979
	購入電力	KW h	46,160	-1%	45,698
	ガソリン	L	8,509	-1%	8,424
	軽油	L	439	-1%	435
	灯油	L	200	-1%	198
廃棄物 排出量	一般廃棄物	Kg	2,026	-1%	2,006
	産業廃棄物	Kg	8,578	-1%	8,492
水使用量		m ³	197	-1%	195
自然環境に配慮した活動		件	3		3

備考

基準期間の電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株) 2023 年[0.390Kg-CO₂/KW h](調整後)を使用

■ 自然環境に配慮した活動

1. 法定点検の入庫促進
2. 自動車リサイクル部品使用の促進
3. エコキャップ回収運動の促進

6 環境経営計画の結果とその評価、次年度計画

① 数値目標を達成するための取組

評価者 小野 評価日 2025年1月31日

- | | |
|---------------------|----------------|
| (1) 二酸化炭素排出量の削減 | (2) 廃棄物排出量の削減 |
| (3) 水使用量の削減(節水の取組) | (4) 法定点検の入庫促進 |
| (5) 自動車リサイクル部品使用の促進 | (6) その他の取り組み事項 |

(1) 二酸化炭素排出量の削減

- ・事業所内の整理・整頓・清潔・清掃の活動の実践。
- ・事業活動に於ける電力・ガソリン・軽油などの削減による二酸化炭素排出量の低減。
- ・社用車におけるエコドライブ(アイドリングストップ、急加速・急発進の禁止など)実践の継続的推進。

取組項目	担当者	評価	次年度
①社用車の効率的な運転管理の推進（整備車両の引き取り・納車の合理的な運行）	菅野	○	継続
②エコドライブの推進（アイドリング時間の削減、アクセルむらのない運転）	菅野	○	継続
③社用車の定期的整備による燃費効率の向上	菅野	○	継続
④スチーム洗車機の未使用時の停止（水洗浄等効率の良い洗車）	菅野	○	継続
⑤不必要時(昼休み等)の照明白灯(減灯)およびパソコンは極力待機電力とする	山本	○	継続
⑥室内空調設定温度は、夏 28℃、冬 20℃とする	山本	○	継続

(2) 廃棄物排出量の削減

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をします。そのために、分別処理を推進します。
分別を徹底し、再利用・再生利用の比率を上げると共に、最終処分に回る分の削減に努める

取組項目	担当者	評価	次年度
①一般廃棄物：白上質紙、新聞紙、段ボール、その他の紙類、ペットボトル、分別の徹底	菅野	○	継続
②産業廃棄物：廃プラ、汚泥、の削減	菅野	○	継続
③裏紙の使用：裏面をコピー及びメモ用紙として使用	山本	○	継続
④弁当容器の容器再使用者からの購入の継続	山本	○	継続

(3) 水使用量の削減（節水の取組）

事業所内で使用する使用水量の削減により、総排水量の削減に努めます。

取組項目	担当者	評価	次年度
①トイレ排水の削減に努める：水量の調整	菅野	○	継続
②こまめに節水に努める：洗車用ホースにワンストップノズルの使用	菅野	○	継続
③車両洗車及び車両下回り洗浄の作業効率の向上	菅野	○	継続

(4) 法定点検の入庫促進

法定点検(3ヶ月点検 6ヶ月点検 12ヶ月点検)入庫促進を積極的に推進します。

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	担当者	評価
目標	88	113	136	119	84	113	93	72	113	103	107	90	1231	菅野	○
実績	95	118	173	116	97	104	94	90	120	110	108	100	1325		

単位：台数

次年度計画(2025年) ※過去3年間平均値

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
目標	92	111	148	120	88	102	97	81	115	111	111	101	1277

単位：台数

(5) 自動車リサイクル部品使用の推進

省資源のため、リサイクル自動車部品の使用をお客様に理解を求め、積極的に推進します。
整備見積時、新品部品とリサイクル部品との価格差等を提示説明。

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	担当者	評価
目標	2	2	3	2	1	4	5	4	3	3	1	3	33	菅野	○
実績	0	1	1	4	4	5	5	5	4	5	2	2	38		
スターター モーター	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	4		
ジェネレーター	0	0	0	3	2	3	1	3	1	2	1	2	18		
エアコン コンプレッサー	0	1	0	1	2	1	4	2	3	2	0	0	16		

単位：個数

次年度計画(2025年) ※過去3年間平均値×1.05

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
目標	2	2	0	2	2	6	5	6	4	3	1	2	35

単位：台数

(6) その他の取り組み事項

ロータスクラブ「エコキャップ回収運動」参加

取組項目	担当者	評価	次年度
ロータスクラブ 「エコキャップ回収運動」参加 回収ボックスの設置 回収推進	山口	○	継続

2 評価

法定点検

達成

点検担当者による計画的なテレフォンコール等により達成

リサイクル部品

達成

リサイクル自動車部品使用をお客様の理解が得られ達成

エコキャップ回収

達成

お客様のご協力により2回の発送ができ達成

7 社員の教育・訓練の実施

社員の環境への意識高揚のために研修会及び会議の実施

分類	対象者	教育・訓練の内容
全社員教育	全社員	① 環境問題やエコアクション 21 等環境への取組意識の向上等
		② 環境方針及び全社共通の環境目標・環境活動計画の内容、手順
		③ 担当する業務に関連した環境目標・環境活動計画の内容、手順
責任者教育	各責任者	① 環境への取組を行う意義と環境経営システムの概要
		② 各自の役割、責任及び権限
		③ 法規制等の詳細及び遵守

2024 年度	全社員教育	全社員	① 全体会議 前月までの現状及び連絡事項の報告
	整備員研修	整備員	② サービス会議 前月までの現状及び連絡事項の報告、技術研修会・社外会議等出席者報告

社内研修会開催 社員のコメント



エコアクション 21 を通じて、環境に優しい整備が大事だと実感しました。毎日の仕事でCO₂を減らし、ゴミをしっかりと分けることを心がけています。



営業の仕事を通して、エコドライブや燃費の良い運転を心がけています。環境に優しい取り組みを続けることで、少しでも貢献できたらと思っています。



毎週のゴミ分別とデータ収集を通じて、環境への意識が高まりました。エコアクション 21 の取り組みに参加できて嬉しいです。



エコアクション 21 の取り組みを通じて、会社全体で環境保護に取り組めることにやりがいを感じています。

8 緊急事態の想定及び対応・訓練結果

緊急事態の想定及び対応

作成

小野

作成日

2017 年 12 月 1 日

項目	内容
想定	エンジンオイル及びギヤオイル等の油庫において、貯蔵用タンクコックの閉め忘れにより貯蔵しているオイル等の漏出する可能性
対応策	① 発見者は、すぐに常備しているオイルマットで漏出拡大を防ぐ ② 発見者は、近くに火気等がある場合は、それを停止し遠ざける ③ 発見者は、応急処置後、環境管理責任者へ連絡する ④ 環境管理責任者は、現場を確認後、原因を確かめ、原因の除去 ⑤ 環境管理責任者は、原因除去後すみやかに、代表者（社長）に連絡する ⑥ 敷地外へ漏出している場合、代表者（社長）は行政機関へ連絡し、処置をする

訓練結果

評価者

小野

評価日

2024 年 12 月 20 日

2024 年度	実施日	2024 年 12 月 20 日	参加者	小野・サービスマン全員
	検証結果	1, 今回は油のかわりに水を漏らし手順どおり実施 2, その結果、対応手順どおり実施できたので有効性ありと判断する 3, 有効性は確認できたので対応手順は変更しない		

増水・浸水の対策 近所とのコミュニケーション

弊社は沼津市を流れる狩野川の脇に立地することから、台風や豪雨による被害が想定されます。お客様からお預かり車両を浸水被害から守るため、社内連絡網(LINE)を設定。近隣住民の皆様への声かけも積極的に行なっていきます。

9 環境関連法規等の取りまとめ

1 環境関連法規の遵守状況

弊社が適用する環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

評価者 小野 評価日 2025 年 1 月 31 日

適用 準用	法規・条例・規制	適用内容または規制基準	備考	評価
適用	廃棄物清掃法	廃棄物排出事業所との委託契約	契約書の締結	○
		マニフェストの管理	D票・E票の返却 (90 日または 180 日以内)	○
		投棄禁止	不法投棄を行わない	○
		保管場所への掲示	60cm×60cm 以上掲示	○
		産業廃棄物管理票交付等 状況報告書の提出	毎年 6 月 30 日までに東部健康福祉 センターに報告	○
適用	沼津市一般廃棄物処理条例	一般廃棄物の分別排出	業者への依頼	○
適用	自動車リサイクル法	引取業者の登録	5 年毎の更新(県知事)	○
		登録業者への引き渡し	リサイクル料金預託確認	○
適用	騒音規制法(静岡県)	特定施設の届出	空気圧縮機(5.5KW)・変更時の届出	○
適用	道路運送車両法	事業の認証取得及び指定取得	登録と更新	○
		整備基準の遵守	各排出ガス整備基準	○
適用	消防法	第 4 類指定数量管理	指定数量の 1 倍を超えない管理	○
適用	家電リサイクル法	指定家電の収集	テレビ・冷蔵庫 他 本年度なし	○
適用	PCリサイクル法	OA 機器の収集	パソコン・モニター 他 本年度なし	○
適用	浄化槽法	浄化槽	定期点検実施 保守点検(年 4 回) 清掃および水質検査(年各 1 回)	○
適用	フロン排出抑制法	事業用エアコンの簡易点検	簡易点検 3 ヶ月毎	○
準用	循環型社会形成推進基本法	3R への努力	廃棄物等の内、有用な物の循環的な 利用を促進	○
準用	地球温暖化対策推進法	温室効果ガス抑制措置	自治体施策へ協力	○
準用	グリーン購入法	環境物品の購入	事業者の一般的責務	○
準用	水質汚濁防止法	油水分離槽	油水分離槽の管理	○
準用	地球温暖化対策推進法	温室効果ガス抑制措置	自治体施策への協力	○

法規の最新版はエコアクション 21 中央事務局のウェブサイトを参照する (2024 年 11 月)

2 違反、訴訟等の有無

関係機関(運輸局・市役所・消防署)及び利害関係者(自治会・顧客・住民)からの指摘・訴訟はありませんでした。

■ 沼津中央自動車の環境への取組み事例

私たちは、「地域や地域住民の方々に対して環境にやさしい整備工場作り」を合言葉に、環境に関する様々な取り組みを行なっています。ここでは当社の具体的な取組み事例を紹介します。

① 二酸化炭素排出量の削減への取組み

- ・ クイック充電ステーションの設置
- ・ 事務所・ショールームの節電
- ・ エコドライブ活動
- ・ 通勤車両燃費表の作成
- ・ 二酸化炭素削減量の見える化(自動車解体)

クイック充電ステーション設置

ショールーム入口にEV車のクイック充電ステーションを設置。

サービス工場内には整備をしながらEV・PHVなどの専用バッテリーを充電できるEV専用充電コンセントを5箇所に設定しています。



事務所・ショールームの節電

ショールームの照明を落として消費電力を抑えています。ショールーム内にPOPを設置し、お客様にご理解いただけるよう活動をしています。

事務所内照明は昼休みに消灯など節電活動を心がけています。



エコドライブの活動

エコドライブのポイントをまとめたポスターを作成し、お客様訪問時にお渡ししています。

通勤車両燃費表の作成

社員全員の通勤車両、営業車両の走行距離・給油量・平均燃費を毎月確認し、エコドライブの意識付けに活用しています。



通勤届出車輛燃費表					
1月	2月	3月	4月	5月	
91	715	1025	929	911	
684	558	768	570		
366	453	611	707		
430	588	572	458		
69	311	271	1825	528	
446	417	235	425		
1448	1634	1535	1551		
654	1189	573	807		
712	114	422			

通勤届出車輛燃費表



通勤の燃費表を社員全員で確認することで、自分がどれくらいエコドライブができているか、所有している車の平均燃費も把握できます。エコドライブのポスターは、お取引先の企業様の事務所内や廊下の目に付く場所に貼っていただけるなど、活用していただいています。

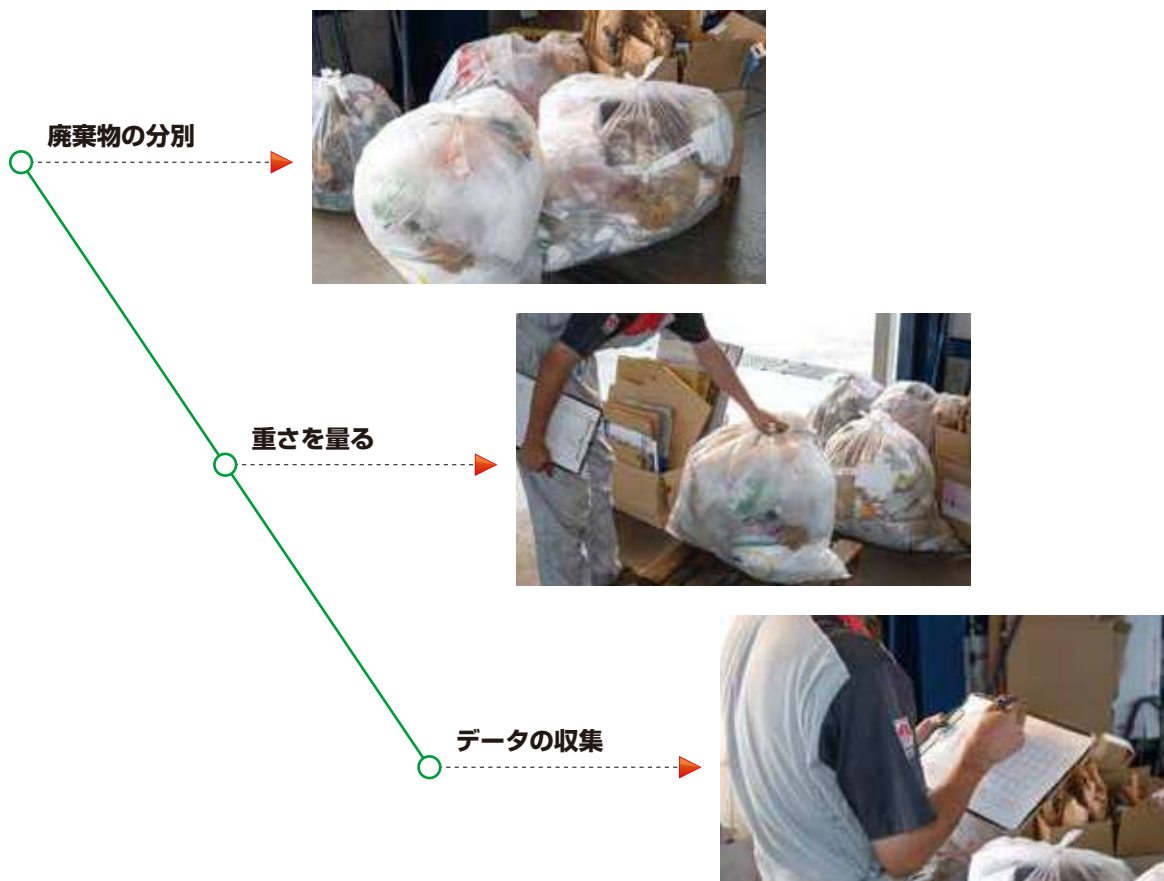
② 廃棄物排出量の削減への取組み

- ・ 廃棄物の分別
- ・ 裏紙の再利用

- ・ プラスチックから紙製品への移行

廃棄物の分別

分別した廃棄物はサービス工場敷地内の集積所に集めます。排出前に秤で重さを量り、データにまとめています。データの収集は社員が当番で行うことで、廃棄物削減の意識付けを行っています。



毎週ゴミを分別して重量を測ることで、どれくらいのゴミが出てるかを把握できるようになりました。ゴミ削減を実行して、環境への負担を減らす努力をしています。

裏紙の使用

プリンターなどで使用したコピー用紙は、お手製の簡単なメモ張にして再利用しています。

- ①使用済みの用紙を同じサイズに揃えます
- ②そろえた用紙を糊付けします。
- ③しばらく乾かせば、お手製のメモ張の完成です。



糊付け製本してあるので、用紙がバラバラになりません。

プラスチックから紙製品への移行

封筒のビニール部分を紙仕様に変更

従来のビニール窓付き封筒は、分別が難しく、リサイクルが困難なため廃棄物として処理されることが多くありました。

紙仕様に変更することで、封筒全体がリサイクル可能となりました。また、紙は自然分解が容易であり、環境への負担が少ないという利点もあります。



紙製クリアファイルの使用

プラスチック製のクリアファイルから紙製に変更しました。紙製のクリアファイルに変更したことで、リサイクル率が向上しました。

廃棄物の量を削減すると同時に、資源の有効活用を推進しています。



紙製クリアファイルは再生紙を使い自然に分解されやすく、製造過程での炭素排出やエネルギー消費が少ない上、そのまま紙リサイクルが可能です。

会社案内や書類を入れるケースとして活用しています。半透明部分には直接メモ書きもできます。

③ 水使用量の削減（節水の取組）

・油水分離層システムの設置

油水分離槽システムの設置

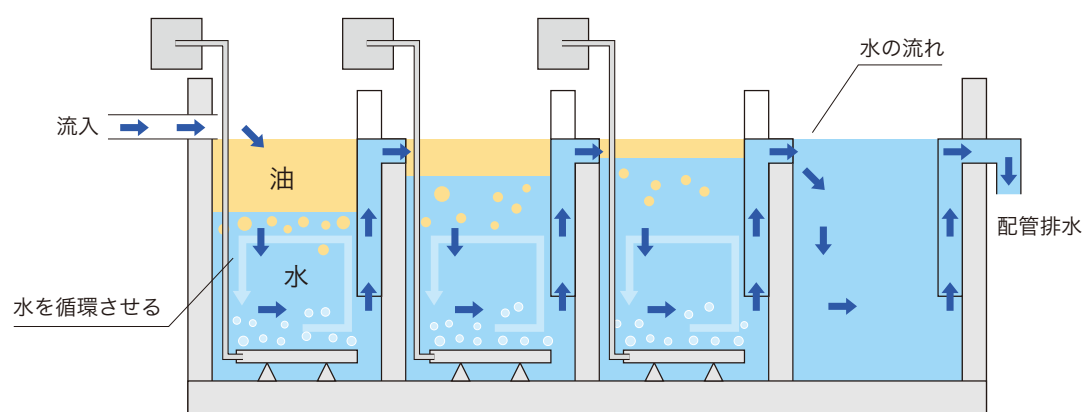
整備工場内の排水をバクテリアが分解

洗車・手洗い・部品洗浄後の水は、全てオイル分離槽（油水分離槽）を通過して外に出て行きます。有害な排出物の除去には機械や薬品が主流ですが、弊社では定期的に微生物活性化剤を与えたバクテリアに油水を分解させ、浄化された綺麗な水を排出しています。

微生物を減ぼすのではなく、元気にさせるシステム



微生物活性化剤 RP-2000 と
エアレーションポンプ



ポンプから空気を送り、水を循環させて水と油の分解作用を促す。

4 法定点検の入庫促進

- ・車検、点検オリジナルパンフレットの作成

車検・点検オリジナルパンフレット

自社オリジナルのパンフレット。法定点検・車検を迎えるお客様へお届けしています。

「安心」「安全」に長くお車をご利用いただけるように、お客様へ定期的なメンテナンスをオススメしています。

当社の車検・点検パンフレットは
QRコードからご覧いただけます。



5 自動車リサイクル部品使用の推進

二酸化炭素削減、資源の有効活用

自動車リサイクル部品使用の推進

当社ではリサイクル部品を数社から購入しています。

その内の「ドラゴンパーツ富士金属興行(株)」様は、購入したリサイクル部品のCO₂削減量を調べることが出来るように、データを公開しています。

令和5年1月～令和6年6月 ドラゴンパーツ様を通じて購入した部品でのCO₂削減量。

フェンダー、バンパー、ドアー	10 点	389.5kg
エアコンコンプレッサー	9 点	292.4kg
ヘッドライト	14 点	142.2kg
オルタネーター	4 点	119.7kg
スターターモーター	3 点	58kg
他	22 点	1,098kg
合計	62 点	2,099.8kg

ドラゴンパーツ様との取引1年半で、2000kgを超えるCO₂の削減ができました。削減数字を示していただけることで、リサイクル部品を使用する取組みが明確になります。ドラゴンパーツ様には感謝します。

NGP グループより自動車リサイクル環境貢献書をいただきました

当社は使用済み自動車のリサイクル解体を、NGPグループの平成自動車解体(株)「オレンジパーツ平成」様に依頼しています。そして解体後の詳細を半期ごとに「資源の有効活用量」「部品再使用によるCO₂削減量」を集計しデータ化していただいています。

2023.10.1～2024.3.31の半年間、平成自動車解体(株)に引渡した38台の内26台を有効活用していただきました。

再使用できた部品は67点、それによつてのCO₂の削減量は860.4kgでした。また、車両解体後に有効活用された資源量は、鉄17,610kg 銅140kg アルミ121kgとなっています。

私たちの行動の見える成果として感じられます。



二酸化炭素削減量の見える化（自動車解体）

当社から出る解体車両のデータをNGP日本自動車リサイクル事業協同組合様にデータを取っていただき、二酸化炭素の削減量を数値で見える化しました。

CO₂ 削減量
2023年11月実績

車名	型式	CO ₂ 削減量	生産点数	NGP販売会社
フィット	GE6	20.3kg	3点	オレンジパーツ平成
ムーブ	LA100S	30.3kg	4点	オレンジパーツ平成
エスティマ	ACR50W	5.5kg	1点	オレンジパーツ平成
エブリィ	DA64V	62.9kg	5点	オレンジパーツ平成
合計		119.0kg	13点	

CO₂ 削減量
2023年12月実績

車名	型式	CO ₂ 削減量	生産点数	NGP販売会社
コンフォート	TSS11	33.9kg	3点	オレンジパーツ平成
ライフ	JB1	4.3kg	2点	オレンジパーツ平成
キャリー	DA63T	98.5kg	13点	オレンジパーツ平成
ワゴンR	MC22S	8.1kg	3点	オレンジパーツ平成
キャラバン	QGE25	145.0kg	4点	オレンジパーツ平成
合計		289.8kg	25点	

CO₂ 削減量
2024年2月実績

車名	型式	CO ₂ 削減量	生産点数	NGP販売会社
キューブ	Z12	0.7kg	2点	オレンジパーツ平成
ハイゼット	S100P	69.4kg	10点	オレンジパーツ平成
スイフト	ZC11S	16.3kg	2点	オレンジパーツ平成
合計		86.4kg	14点	

CO₂ 削減量
2024年3月実績

車名	型式	CO ₂ 削減量	生産点数	NGP販売会社
ソリオ	MA15S	89.5kg	3点	オレンジパーツ平成
タウンエース	S402M	78.0kg	5点	オレンジパーツ平成
アクティ	HH5	6.6kg	1点	オレンジパーツ平成
エブリィ	DA64V	191.0kg	6点	オレンジパーツ平成
合計		365.2kg	15点	
累計		860.4kg	67点	

⑥ その他の取り組み事項

ロータスクラブ「エコキャップ回収運動」参加

エコキャップ回収運動

静岡県ロータスクラブでの活動の一環として、当社ではペットボトルのキャップを集めるための「エコキャップ回収BOX」を設置しています。

日常、廃棄してしまうペットボトルのキャップも、実は人のためになります。

エコキャップ運動とは、集めたキャップをリサイクル業者様に買い取っていただき、その売却益をワクチン購入の資金として寄付する運動です。私たちは静岡県のロータスクラブを通じて、東安アジアを中心に、ポリオなどのワクチンを贈っています。



エコキャップでできること

約 2 Kg のエコキャップ = 約 800 個 = ポリオワクチン 1 人分 = 20 円。

45L の家庭用ゴミ袋 (1 袋) = エコキャップ 約 2500 個 = 約 6.2Kg = ポリオワクチン 3 人分

リサイクルでCO₂の削減に貢献

キャップはゴミとして焼却処分すると約 400 個 (約 1Kg) で約 3150g のCO₂が発生します。回収したキャップをリサイクルすることで、CO₂削減に貢献することができます。

当社ショールームにエコキャップ回収BOXを設置

当店にお立ち寄りのお客様、お取引先企業様など、多くの方にご協力いただいております。

回収したエコキャップの実績は、当社ホームページでレポートとして紹介しています。



エコキャップ回収レポート 2024 年 11 月

エコキャップの回収運動にご協力いただき、ありがとうございます。

回収業者さんへ、直接エコキャップをお届けさせていただきました！みなさんのご協力で、たくさんさんのキャップが回収できました！

今回は、ポリオワクチン 26.0 人分相当の 104.0Kg のキャップを回収できました。

貴社 ご提供のプラスチックがワクチンに

「世界の子どもにワクチンを日本委員会（J&VI）」は路上棄ての子どもたちにワクチンを届ける活動を行う団体です。社会貢献活動の一環として、認定特定非営利活動法人世界の子どもにワクチンを日本委員会との連携するワクチンで予防可能な子供の疾病対策活動に賛同し子供のワクチン確保のために支援活動を2009年11月から始めました。

ご提供頂いたキャップはkg/5円で当社が買い取り、ポリオワクチン1人分/20円で換算し、「重さ」と「ワクチンの人数」をお知らせしております。

11月1日の重量は104.0kg (26.00人分)でした。
ご協力ありがとうございました。

エコキャップ回収受領書

エコキャップ回収レポートは、QRコードからご覧いただけます。



■ 良好な労働環境の整備に関する取組み

工場内の冷暖房設備

整備工場を「冷暖房化」しました。2024 年初から計画をはじめ、夏に間に合うようにエアコン工事を進めてきました。最近の夏は 6 月から 9 月までの 4 か月間の酷暑が続きます。

工場内で作業をしている整備士が汗だらけになって夕方には疲れ切っている姿を見ると、エアコンの設置は必要だ感じていましたが、工場建屋の構造的な問題や常に車の出入りが伴う事など、エアコン設置が難しい状況でした。しかし当社のSDGsの取組みに「良好な労働環境を整備する」課題もあり、思い切ってエアコンの設置工事をしました。

環境経営目標に関係する「購入電力の大きな増加」につながってしまいますが、「働きやすい労働環境づくり」を優先しました。



■ エコ整備への取組み

自社の日々の仕事のなかで「何がエコに繋がるのか」取り組みの検討をしました。
お客様がお使いになっている車を「長持ち」させること、車の「使用サイクルの延長」のお手伝いをする整備。そして、燃費改善とCO₂排出量削減率は、対応関係にあることから、「燃費を向上させること」を意識した点検整備作業を推進することを考え、取り組みをしています。

点検整備の実施による「エコ整備」の推進

・ 法定点検

乗用車の法定 1 年点検・貨物車の法定 6 ヶ月点検の推進活動



■ 取組み事例紹介

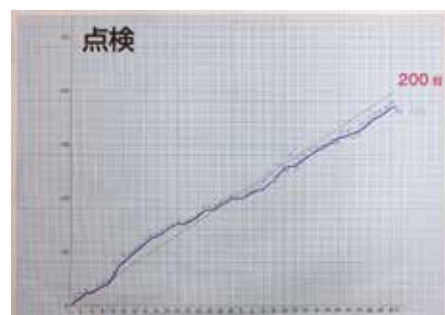
- ・ 点検内容をわかりやすく解説したパンフレットを作成。
- ・ 点検時期到来リストの作成。
- ・ 「点検の時期です」のお知らせDMを発送。
- ・ 社員皆でお客様に「点検の案内」の電話連絡。
- ・ 入庫促進と実績管理。

「法定点検」は車の使用者には実施しなければならない義務がありますが、「車検」と違い実施しなくても「罰則」が無いために、実施率が非常に低いのが実態です。

しかし車検と次回車検の中間が法定点検の時期になるので、車を「安全」に「安心」して使用する為の点検作業は必須です。(乗用車 1 年・貨物車 6 ヶ月)

電話連絡をさせていただいても、「点検しないと罰則があるの?」「調子いいからやらない」や「都合つかない」の返事が多く、推進はとても「厳しい」ものです。
費用がかかるため、仕方がないことなのかもしれませんが、車の整備を生業にしている私たちは、点検整備により不良箇所の早期発見、消耗や経年劣化に伴うリスクの低減など、点検整備の実施はお客様に「安全」に「安心」して車をお使いいただけることの説明をし、実施率を高めていきます。

毎年 3 回、社内キャンペーンで「法定点検」の実施数アップの推進中です。



社内キャンペーンではグラフを貼り出し、進捗状況を社員全員で確認しています。

・汚れない清潔な整備環境

汚れない清潔な環境の中でお客様のおクルマをお預かりいたします。

・安全かつスピーディーな作業

工場内は整備士の安全を確保する十分なスペースを確保。作業性良く確実な検査が行える作業ピットを設けました。



・タイヤ空気圧点検

経済性や環境を考え、燃費を少しでも良くしたいと考える方は多くいらっしゃいます。タイヤは燃費改善にとって非常に重要な役割を果たしています。タイヤには適正な空気圧が設定されていますが、この空気圧が低すぎると燃費が悪化します。空気圧が低いとタイヤの転がり抵抗が増し、その結果、燃料を余分に消費してしまうからです。

現在、エコ性能の高いエコタイヤも販売されていますが、普通のタイヤでも適正な空気圧を維持することで、エコ性能を維持・向上させることが可能です。(低燃費タイヤを使用することで、燃費が2～5%ほど向上すると言われています。当社ではエコタイヤの使用を推奨しています)

空気圧の点検・調整は、5分ほどで完了します。無料で対応しておりますので、お気軽にお越しください。



・スズキ愛車無料点検の推進

スズキの販売店グループは、スズキの車をお使いのお客様方に毎年定期的に「スズキ愛車無料点検」を実施しています。15項目の点検ですが、オイル・冷却水のチェックやタイヤ空気圧の点検調整など、お車を良いコンディションに保つお手伝いをさせていただきます。

お車を大切に長くお使いいただく為の取り組みです。

愛車無料点検実施数

単位：台数

年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
実績	471	475	443	517	538			560	545	577	570

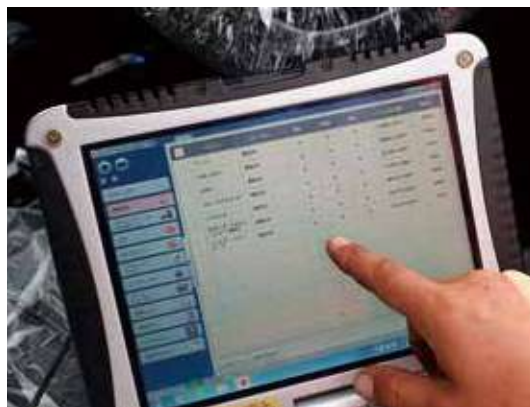
愛車無料点検実施期間は、ショールーム前に陣旗を設置し告知活動をしています。また、自社ホームページやDMで愛車無料点検をご案内しています。



「コンピューター診断」点検の実施（スキャンツールの活用による「エコ整備」）

スキャンツール（外部故障診断機）による、車載コンピューターの点検作業を行っています。

現在、ほぼ全ての自動車は車載のコンピューターで管理され動いています。車の各部に電気回路や電子回路が採用され、性能アップが図られるようになり、これらを統合して制御しているのが、ECU（エンジンコントロールユニット）と呼ばれるコンピューターです。エンジン・ミッションからエアコン・エアバック、最新の自動ブレーキ補助システムなどをコンピューターが制御しています。重要な車のコンピューターの点検は、スキャン



ツール（外部診断機）で行います。スキャンツールを使った点検整備作業をしないと高度化した車の整備に対応できないのです。

自動車整備の業界では、スキャンツールを「故障診断」に使っていますが、当社では故障診断だけでなく、「予防点検整備」としてスキャンツールを活用しています。当社はSUZUKI アリーナとして営業展開をしていますが、車検・点検で入庫する全てのスズキ車のコンピューターにスキャンツールを使った点検診断を行っています。

スキャンツールを使用して「車載コンピューターのデータを覗き込む」作業により、過去の不具合や適正なデータ確認による管理が出来ます。

適正な状態を保つ事が出来れば、排気ガスの状態も良好、燃費の向上にも役立ちます。全ての入庫車両に対応できるような環境を整えていきます。

OBD 車検への対応

2024 年 10 月から「OBD 車検」という新たな車検制度が始まりました。従来の車検では車の安全確保の意味で、ブレーキ・ステアリング・下回りなどの機械的なものと、排気ガスの適正化などの項目を中心に整備し車検を行ってきました。しかし昨今の車のほとんどは「車載用 ECU」と呼ばれるコンピューターを使った電子制御の車になっています。車載用 ECU には、「エンジン制御用」のものと「運転支援システム」などの種類があります。

OBD 車検の主な目的は、自動車に内蔵された電子制御システムが正しく動いているかを検査し、誤作動による事故やトラブルを未然に防ぐことです。車載式故障診断装置 (OBD) が記録している、電子制御装置に故障がないか等の診断結果を、スキャンツール等を用いて点検します。

とりあえず 2021 年以降に新型車として発売された車からが対象になりますが、数年後には全ての車が検査対象になります。

当社では 10 年程前から、車検・点検で入庫した車にスズキの純正スキャンツールを使用して、OBD 点検を実施させていただいています。車のコンピュータの中を覗き込む事を「当たり前の整備項目」として行ってきました。車を「安全に安心」してお使いいただけるように、引き続き努力いたします。よろしくお願いします。

自社ホームページ、名刺、会社案内、サービス工場チラシに「コンピューター診断」点検の実施を掲載し、お客様への告知活動をしています。



■ 表彰・受賞

- ・ 2014 年度 中部運輸局長「環境に優しい自動車整備事業者」表彰
- ・ 2015 年度 中部運輸局長「優良指定自動車整備事業者」表彰
- ・ 2019 年度 中部運輸局長「環境に優しい自動車整備事業者」表彰
- ・ 2024 年度 中部運輸局長「環境に優しい自動車整備事業者」表彰
- ・ **16 年連続** 中部運輸局静岡運輸支局長「優良指定自動車整備事業者」表彰
- ・ **13 年連続（通算 16 回目）** 中部運輸局静岡運輸支局長「環境に優しい自動車整備事業者」表彰

2024 年度は、中部運輸局静岡運輸支局より「優良自動車整備事業者」と「環境に優しい自動車整備事業者」の表彰をいただきました。

「優良自動車整備事業者」の表彰は 16 年連続、「環境に優しい自動車整備事業者」の表彰は 13 年連続（通算 16 回目）の表彰になります。

静岡県内の数ある事業所の中で、連続表彰していただけるのは大変光栄なことです。

大きな「表彰状」と「表彰看板」を誇りに日々の仕事に社員一同励んでおります。



■ 日刊自動車新聞社 主催 第1回「整備事業者アワード2022」受賞

「整備事業者アワード」は、変革する自動車業界において市場環境の変化を前提とした先見性のある経営手法や取り組み、継続的な地域支援など社会貢献に取り組む自動車整備事業者に着目し、今後の整備業界の手本となり得る事例を表彰する制度です。

初回となる今回、全国の指定工場、認証工場の中から環境対応部門にて表彰をいただくことができました。私たちの環境への取り組む姿勢をこのような形で評価いただけたことは大変嬉しく、光栄に思います。

社会貢献領域【環境対応部門】

活動内容

「環境経営レポート」を冊子にして配布し、「環境意識の輪を広げる」活動



■ コミュニケーション活動と社会貢献活動

コミュニケーション活動

自社発行誌 Free Wave(フリーウェーブ)の配布

Free Waveとは、お客様への自動車に関する情報はもちろん、地域の情報や耳寄り情報などをご提供することで、

当社とのつながりを感じていただくために発行している「心の定期便」です。

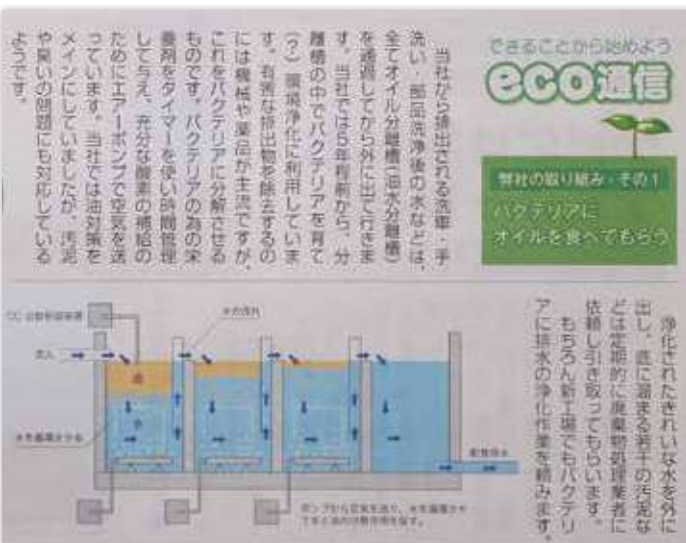
おかげ様で、創刊より10年以上継続することができておりますが、創刊当初は、社員全員で夜中まで題材を集め、慣れない手つきでワープロ打ちをし、コピーしたものをお届けさせていただきました。

現在では、「より独自性を」「もっと地域密着の情報を」と話し合い、現在の形状に至っております。



① 自社発行紙で環境活動の取組みを紹介

当社の事業内容における環境との関わりについて、ニュースレターを通じ定期的にお客様にご報告と告知をしています。



エコアクション21の更新報告、エコキャップの回収運動の報告などもニュースレターとホームページを通じてお客様に発信しています。

■ ボランティア活動・社外活動

ボランティア活動

盲導犬支援募金活動



当社では、盲導犬の普及活動への募金箱をフロントカウンターに設置しております。
皆様からの募金は公益財団法人日本盲導犬協会に寄付させていただき、盲導犬育成のための財源として役立てていただいております。

沼津中央自動車ホームページでは、盲導犬募金活動レポートを公開しております。

	募金額	累計
2012年 12月	8,932 円	71,994 円
2013年 7月	5,908 円	77,902 円
2014年 1月	7,961 円	85,863 円
2015年 1月	19,718 円	105,581 円
2016年 1月	22,416 円	127,997 円
2017年 1月	33,996 円	161,993 円
2018年 12月	18,164 円	180,157 円
2020年 1月	41,715 円	221,872 円
2023年 9月	20,613 円	332,102 円

盲導犬募金活動レポートは、
QRコードからご覧いただけます。



■ メディア掲載

弊社の環境への取り組みを紹介していただきました！

自動車整備事業場用 環境家計簿システム パンフレット

環境に取り組む企業例として紹介

弊社のショールに設置している「節電のご案内POP」が自動車整備事業場用 環境家計簿システム パンフレットに事例として紹介していただきました。



グリーン自動車整備事業場静岡県推進協議会 パンフレット

環境にやさしい自動車整備事業場等の中部運輸局長表彰を実際に受賞した事業場として紹介



代表者による全体評価と見直し・指示

今年度の環境目標に対しての結果と評価は、二酸化炭素排出量総合計、購入電力量、ガソリン・軽油使用料・産業廃棄物量が目標未達成になりました。原因はレポート内に記載のとおりですが、達成できなかった事実をしっかりと確認して次年度の活動に反映させていきます。

今年度は営業努力により、車両販売台数の増加・整備車輛台数の増加など事業活動が活性化され、その仕事量の増加に伴い環境目標が達成できなかった項目が増えてしまいました。環境目標の設定は仕事量の増減などをしっかりと把握して行うようにする必要を感じました。今後の課題として認識します。

当社のSDGsの目標に「良好な労働環境の整備」を掲げています。その中で、特に夏の「酷暑」対策として、整備工場の「完全空調化（冷暖房）」を目標にしてきました。

整備工場に冷暖房設備を導入することは、たいへん高額の設備投資になるが、最近の「夏の暑さ」は異常とを感じるもので、しかもその期間が長く、整備士の体力の消耗などに起因する健康不安が問題とされるようになりました。そのため今年度、「完全空調化（冷暖房）」の工事を行い夏に稼働を開始しました。

自動車整備業界も「人手不足」の状況で、働きやすい労働環境の整備は必須の業界になっています。明らかな電力消費量の増加になりますが、今回は冷暖房工事を優先しました。

当社でエコアクション21の取組を始めて15年が経過しました。この数年の「コロナ禍」などもあり、生活のスタイルや社会活動の変化など、活動を始めた当初とは異なった取り組みや、削減目標の設定などの必要性も、感じるようになっていきます。また活動がマンネリ化しないように推進担当者の入替や原点に戻って意識改革を行っていきます。

今後もエコアクション21を取り組む事で社会貢献ができるように、改善と変革で収益につながる経営システムを構築して、循環型社会へ貢献できる企業を目指したいと考えています。

<指示の内容>

次年度において環境経営方針は継続、実施体制は新たな体制によって実行する。

目標は前年実績に対して-0.1%、活動計画は「SDGs達成に向けたチェックシート」を活用して取組を進めていきます。

評価日 2025年1月31日
沼津中央自動車株式会社
代表取締役 今野秀明

■ 沼津中央自動車 SDGs 行動宣言

当社は平成 21 年より、環境省が策定した「エコアクション 21」の認証・登録を受け、環境の取り組みを続けています。事業活動において発生するCO₂の量を確認し、その削減の取り組みをし、小さな会社でもできる地球の温暖化に対する対応をしています。また、この環境の取り組みを地域の皆様に広げる、環境コミュニケーション活動のために、環境経営レポートを冊子化して配布し、豊かで持続可能な社会を目指し貢献していきます。



① 地球温暖化への取り組み

事業活動で発生するCO₂量を明確に数字で把握し、削減に努めています。電力や燃料などの数字で計る事ができる削減だけでなく、一般廃棄物などをさらに分別してリサイクル化を進め、焼却する廃棄物の削減活動を続けます。

② 環境に配慮した製品・サービスの提供

お客様の車の点検・車検時にはスキャンツールを使いECUを確認し、適切な状態を維持し燃費の向上につなげる。2050年カーボンニュートラルに向けEV化していく車の変化に対応できる設備と技術教育をする。

③ 持続可能な経営

SDGsを経営活動に取り組みます。代表者を中心に社員全員に取り組みの浸透を行い、社外にも目標・実績を開示しコミュニケーションする事で「環境の取り組みの輪」を広げる活動を続けます。



沼津中央自動車株式会社 SDGs宣言書

沼津中央自動車株式会社は、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、全日本ロータス同友会とも連携し、お客さまのカーライフを支える事業を通じて安心安全で持続可能な社会の実現に向け貢献してまいります。

2023年10月

沼津中央自動車株式会社

代表取締役 今野 秀明

マテリアリティ（重要課題）と主なターゲット

1 安心安全なまちづくりへの貢献

- 衝突被害軽減ブレーキ車や先進技術が搭載された高年式・安全装置装着車の販売取組みの強化
- BCP推進、エコ安全ドライブの啓発



2 環境への取組み

- エコ整備推奨によるカーボンニュートラルへの貢献
- 故障修理のリサイクル部品の積極活用
- エコアクション21認証（環境省）取得維持
- 「環境に優しい整備工場」表彰（国土交通省）取得



3 地域貢献

- 全日本ロータス同友会との連携による献血活動
- エコキャップ回収による子どもへのワクチン接種への支援
- 盲導犬支援募金への協力



4 働き方改革の取組み

- 資格取得支援制度の運営
- 高等学校等からのインターシップ受け入れの推進
- ハラスメント研修などの社員教育の強化



登録機関：沼津市SDGs推進パートナー登録制度（沼津市運営）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SUZUKI スズキアリーナ沼津大岡

ロータスクラブ 沼津中央自動車株式会社

SDGs (Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標) とは、世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した17の目標と169のターゲットです。

沼津市SDGs推進パートナー登録証

沼津市SDGs推進パートナー登録制度とは、SDGsの目標達成に寄与する取組内容を「見える化」し、市域全体のSDGsの取組の誘発・加速を図るため、SDGsの達成や課題解決に向け取り組んでいる企業や団体等を沼津市が推進パートナーとして登録する制度です。

弊社では、2023年10月23日に沼津市SDGs推進パートナーの登録証を交付していただきました。



沼津市SDGs推進パートナー登録制度の詳細は、沼津市のSDGsに関する取組でご確認いただけます。

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/keikaku/sdgs/>



沼津中央自動車 SDGs 達成に向けたチェックシート

記入日：2023 年 10 月 19 日

当社は「環境の取り組み」を HP で公表し、そして内容を「冊子」にし配布して、環境意識の輪を広げる活動をしてきました。

私たちのような小さな規模の会社の活動でも、発信する機会を探し、繰り返し「環境の取り組み」を言葉にし、レポートを配布し続けることで、当社を取り巻く方々から共感を得て、活動の輪を広げていく事ができる。その想いを伝えるツールとして、当社の「環境経営レポート」を作成してきました。

エコアクション 21 から、より広く取り組みの想いを社員全員で共有出来るように、SDGs 行動宣言をしました。取り組みの輪を広げて行きたい！ 小さな取り組みですが、想いを込めてそれを積み上げていきます。

No.1

側面(分類)

環境



チェック項目

温室効果ガスの排出を抑制するため、エネルギーの使用状況や温室効果ガス排出量の把握、エネルギー使用効率の改善、再生可能エネルギーの利用などに取り組んでいる。

現在実施している具体的な取組

- ・「環境経営方針」及び「エコアクション 21」の取得水準に則り、電力等のエネルギー使用量や温室効果ガス排出量の把握をしています。
- ・温室効果ガス削減については、年度及び中長期の目標を設定して取組を推進しています。

今後実施予定の取組

- ・「エコアクション 21」の活動を始めて 13 年で CO2 の排出量を年間約 10 トン削減することができました。今後の事業活動で電力消費量が増えることが予想されますが、CO2 排出量に注意しながら事業活動をしていきます。
- ・太陽光パネルの設置を検討中です。(EV 充電設備に関連して)

No.2

側面(分類)

環境



チェック項目

事業活動等から発生する廃棄物の管理及び処理を適切に行っている。

3R (リユース、リデュース、リサイクル)を実施するなど、循環型社会の構築に取り組んでいる。

現在実施している具体的な取組

- ・環境経営方針及びエコアクション 21 の取得水準に則り、産業廃棄物削減計画を策定するなどの取組を推進しています。
- ・事業活動における整備部钣金修理について、リサイクル部品使用の目標を設定し促進に取り組んでいます。

今後実施予定の取組

- ・一般廃棄物の内容を精査し、廃棄でなく再資源化出来るものがないか再チェックします。処理業者の処理方法なども確認して実施します。
- ・令和 6 年の課題として「燃やさなければならないゴミ」と「それ以外のゴミ」の分別の再勉強を行います。

No.3

側面(分類)

環境



チェック項目

健全な森林環境や河川環境を維持するための活動など、生態系の保全に努め、地域や他団体が実施する環境保全活動に協力・支援している。

現在実施している具体的な取組

- ・「環境経営方針」に則り、社員の環境意識向上に努めています。
- ・自治会の環境整備活動などにも積極的に参加し、自社周辺の清掃活動に取り組んでいます。
- ・20年ほど前から「エコキャップの回収活動」を行っています。ペットボトルからエコキャップを外して持ち帰るという簡単な意識と行動が、環境を大切にしたいの一歩になる活動だと思い実施しています。自社・社員・家族など私たちと係る方々に協力を求め、その窓口としても活動しています。エコキャップ回収活動により、世界の子供たちにポリオワクチン接種への支援。

No.4

側面(分類)

社会 環境



チェック項目

事業に伴う調達について、環境負荷や人権などに配慮している。

現在実施している具体的な取組

- ・部品の修理交換にあたってはメーカー純正製品や認証のあるリサイクル部品を使用しています。
- ・リサイクル部品の仕入れに関しては、自社と同じような環境活動をしている業者からの仕入れを優先している。

今後実施予定の取組

- ・仕入れ先や協力企業に対して、人権など道德遵守への協力をお願いしていきます。

No.5

側面(分類)

経済 社会



チェック項目

商品やサービスの安全性を担保する体制を整備すると共に、品質の向上や新たな技術の開発等に積極的に取り組んでいる。

現在実施している具体的な取組

- ・製品やサービスに関する方針、目標、組織体制を整備して事業活動にあたっています。(自動車分解整備指定事業所の組織作り)
- ・自動車指定整備事業者として「苦情・問い合わせ・受付票」を作成するなどお客さまのご意見を仕事・サービスに反映する仕組みを構築しています。

No.6

側面(分類)

経済 社会 環境



チェック項目

環境に配慮した製品の開発や、社会課題の解決につながる商品やサービスの提供に取り組んでいる。

現在実施している具体的な取組

- ・お客様がお使いになっている車を「長持ち」させること、車の「使用サイクルの延長」のお手伝いをする「エコ整備」に取り組んでいます。なかでも燃費改善とCO₂排出量削減率は、対応関係にあることから、「燃費を向上させること」を意識した点検整備作業を推進しています。
- ・車のコンピュータ情報を（ OBD 情報）をスキャンツール（車外診断機）を使って確認し、車の走行状態が適正であるかの診断を車検・点検のメニューに入れ、排気ガスの適正管理を行っています。
- ・EVの普及啓発に向け、「クイック充電ステーション」を設置しています。

No.7

側面(分類)

経済 社会



チェック項目

長時間労働の防止、テレワーク等の多様な働き方の導入など、ワークライフバランスの推進や良好な労働環境の整備に取り組んでいる。

現在実施している具体的な取組

- ・「健康経営」の取組みを通じて、長時間残業の抑制、休暇取得などに取り組んでいます。
- ・「家庭を大切に・家族と一緒にの時間をもちなさい」それが自社の基本的な姿勢です。
- ・クールビズ、ウオームビズに取り組んでいます。

今後実施予定の取組

- ・夏の「酷暑」の期間がとて長くなってきました。整備工場の現場で働きやすいように「完全空調（冷暖房）」完備のサービス工場にしたいと思っています。課題です。

No.8

側面(分類)

社会



チェック項目

年齢、性別、国籍、障がいの有無等による不当な差別を防ぐ体制の整備等により、女性活躍など、多様な人材が活躍できる環境の構築に取り組んでいる。

現在実施している具体的な取組

- ・あらゆる雇用条件で、差別しない体制を構築し、経営トップが積極的に関与しています。

今後実施予定の取組

- ・「差別はいけない!」「絶対に差別してはいけない!」弱者に接する気遣いなどを当たり前に（自然に普通に）出来るような会社創りをしていきます。

No.9

側面(分類)

社会



チェック項目

セクシャルハラスメントやパワーハラスメント、マタニティハラスメント等、あらゆるハラスメント 行為を防止するための体制を整備するなど、良好な職場環境の構築に取り組んでいる。

現在実施している具体的な取組

- ・ 全員参加のミーティングでハラスメント行為を行わない意識付けを繰り返しています。

今後実施予定の取組

- ・ あらゆるハラスメントの防止を担当する責任者を専任して対応します。

No.10

側面(分類)

経済 社会



チェック項目

ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化など、業務の効率化やビジネスモデルの変革などに取り組んでる。

現在実施している具体的な取組

- ・ 顧客の情報をデータ化による効率化に取り組んでいます。
- ・ お客さまの「安心安全」と「適正整備」に向け、ICT機器の導入による「コンピューター診断」点検の実施（スキャンツールの活用による「エコ整備」）を行っています。
- ・ SNSを使い客様との情報交換・在庫予約などを行えるよう、ソフトの導入をしました。

No.11

側面(分類)

社会



チェック項目

若者の就業や移住を促進するため、UIIターンの推進など、若者の定着に向けた取組を行っている。

現在実施している具体的な取組

- ・ 市内在住者に限らず高校、大学からのインターンシップを受け入れています。
- ・ WEBを使った求人活動もしていて、若年者に関心を持っていただく情報発信をしています。

今後実施予定の取組

- ・ SNSを活用しての情報発信に力を入れていきます。

No.12

側面(分類)

社会



チェック項目

疫病予防や早期発見、良好なメンタルヘルスの維持など、従業員の健康維持に取り組んでいる。

現在実施している具体的な取組

- ・ 毎朝、全員で「ラジオ体操」をします。
- ・ 毎年、社員全員に「健康診断」を実施していただき、健康維持の共有をしています。
- ・ 社員とその扶養家族も対象に「大腸がん」の検診を受診しています。
- ・ 仕事上でストレスを感じることがないように、定期的な個人面談・相談を行っています。

No.13

側面(分類)

経済 社会



チェック項目

全ての従業員にスキルアップのための研修等の機会を提供すると共に、社会に役立つ情報の外部への発信やインターンシップの受入れなど、社内外にわたる人材の育成に努めている。

現在実施している具体的な取組

- ・自動車業界は、2050年カーボンニュートラルに向かう「電動化」や、交通事故をなくすための「自動化」の世界に向かっていきます。クルマに関する技術は高度化し、それに対応する整備技術のスキルアップに努めなければなりません。社員全員の課題として、積極的に技術研修会やセミナーに参加させています。
- ・社員育成に向け「資格取得の支援」を行っています。
- ・毎年、高校生のインターンシップを実施し、自動車点検整備が安全面だけでなく、CO2の削減にも役立つことの重要性を発信しています。

今後実施予定の取組

- ・「中学生の職場体験学習」の受入れ事業所としても窓口を広げます。

No.14

側面(分類)

社会



チェック項目

反社会的勢力の排除、汚職や贈収賄、不正競争行為の防止など、法令を遵守する体制を整備している。

現在実施している具体的な取組

- ・お客様方との信頼関係がなければ成り立たない業界です。研修や会議などの場を通じて、コンプライアンスの遵守の重要性を徹底しています。

今後実施予定の取組

- ・コンプライアンスに関する社内規程を早期に策定します。

No.15

側面(分類)

経済 社会



チェック項目

自社のSDGsの取組をマネジメントする担当者や担当部署を設置し、取組計画の策定、運用を行っている。

現在実施している具体的な取組

- ・SDGs宣言を実施するとともに「エコアクション21」推進を基本に態勢構築しています。

今後実施予定の取組

- ・現在「エコアクション21」推進の担当者を決め活動していますが、SDGsの取組全般を担当する責任者を選任します。

No.16

側面(分類)

経済 社会 環境



チェック項目

自社の環境、社会、ガバナンスに関する取組を社外に公開している。

現在実施している具体的な取組

- ・ホームページでの「SDGs行動宣言」「環境経営方針」開示、および「エコアクション21」の「環境経営レポート」により、自社の環境やガバナンス、リスクマネジメント体制を社内外に公表しています。

ロータスタウンに 2023 年 5 月 11 日から 6 回に分け掲載された、インタビュー記事の抜粋です。

LOTAS TOWN NEWS

達人に訊く！

創業者の「地域に貢献する整備工場」への想いが「環境に優しい整備工場」につながっています。

ロータスクラブは 2007 年に「ロータス環境宣言」を行った。これを機に、全国の自動車整備工場をリードして環境活動を推進してきた。

そんなロータスクラブの中でも、静岡県沼津市で自動車販売・整備を営む沼津中央自動車株式会社（以下、沼津中央自動車）は、環境活動に全社をあげて取り組み、成果を挙げている会社として知られている。2010 年に環境省が主導する「エコアクション 21」の認証を取得し、以後この活動を継続。2022 年には、日刊自動車新聞主催の「整備事業者アワード 2022 環境対策部門」を受賞し、「SDGs 行動宣言」を行った。

今回の「達人に訊く」コーナーでは、同社社長の今野秀明（いまの ひであき）さんに環境経営と SDGs についてうかがった。第 1 回目は会社の成り立ちと初期の環境への取り組みについて一。

「誠心誠意は万事に通ず」

— まず、会社の成り立ちから教えてください。

今野：1946 年に私の父である今野嘉男が、蒲原町（現静岡市）に今野エンジンという自動車整備工場を構えたのが最初です。父は第二次世界大戦中にインドネシアのスマトラ島に出征しています。そのときに車両整備の技術を身につけており、日本に帰還後、自動車整備の仕事をはじめました。その後、1954 年にこの沼津に拠点を移して、沼津中央自動車として法人を設立しました。

— 当初から経営は順調だったのですか？

今野：とても難しかったようです。でも腕がいいという評価をいただけた事で、沼津では開業してすぐに、地元の大きなパン屋さんのトラックを点検・整備する仕事を請け負えたことが大きかったです。そのパン屋さんはこの地域のすべての小中学校に給食用のパンを納めていたので、2 トントラックなどを数十台所有しており、父はそれらの点検・整備をすべて任せられたんです。



沼津中央自動車 代表取締役 今野 秀明

— どんな経緯だったのでしょうか？

今野：当時は、まだ食糧事情があまりよくない時代でした。父は、パン屋さんの社長さんから「お腹を空かせて給食の時間を待っている子どもたちがたくさんいる。給食のパンを時間に遅れないように、必ず届けられるように協力してほしい」と言われたそうです。というのも、そのころのトラックはすぐにオーバーヒートして停まったり、故障したりしたからです。それで、独自の整備体制を敷いて対応していました。

— それは、どんな整備体制だったのですか？

今野：前もって故障を防ぐために、当時としては珍しい予防点検・整備を励行していました。その結果、ほとんど故障が起きず、子どもたちの待つ給食にパンを無事に届けることができました。ちなみに、今私たちの会社ではお客さまに定期点検の入庫を積極的に促しているんですが、これも父の取り組みのDNAが息づいている結果といえます。



— お父さまは、ある意味、公的な使命感を持って仕事をされていたわけですね。

今野：それは多分にあると思います。父は誠心誠意を尽くして仕事をするをモットーにしていました。実際、後年には「誠心誠意は万事に通ず」という言葉を社是に掲げています。同時に、人や地域のためになる仕事の大切さを強く意識し、それに携わることに誇りを持っていました。わが社の現在のコンセプト「人・車・地域の未来をサポート」は、父の想いを反映したものです。さらに言えば、その想いは現在のわが社の環境への取り組みの原点ともなっています。



蒲原町で創業した今野エンジン

父の絶対の教え「廃油はきちんと処理しろ」

— ご自身の社長就任は1997年と伺いました。
そのときから環境への取り組みを始めたのですか？

今野：いえ、そうではないです…。実を言うと、私は会社を継ぐ予定ではありませんでした。跡継ぎだった長兄が病死し、すぐ後に父が倒れ、私は41歳にして社長にならざるを得ないことになった。なので、社長就任からしばらくは、社業を維持するのに精一杯でした。

— 2006年に整備工場に廃油を含む排水を浄化する油水分離槽システムを導入し、翌2007年には中部運輸局静岡支局から「環境に優しい自動車整備工場等の顕彰」を受けられています。このあたりからでしょうか？

今野：そうですね。地域に迷惑をかけない整備工場として、「絶対に廃油を川に流さない」という父の教えがありました。そこに、新しい油水分離槽システムの話が伝わってきたので導入したのです。そして、2007年の「ロータス環境宣言」。私も国立京都国際会館にいて、気持ちの高ぶりを感じました。まず取り組んだのが「環境に優しい自動車整備工場等の顕彰」です。まあ、その当時は必要な項目を記入して申請すれば通してくれる感じだったので、環境活動に熱心に取り組んだというレベルではなかったかもしれません。

— では、環境活動に熱心に取り組み出したのはいつからでしょうか？

今野：2008年に、ロータスクラブの静岡県支部が始めた「エコキャップ回収運動」に参加したことがきっかけになりました。本当に小さなアクションなんですが、これなら自分たちにもできるエコ活動かもしれないと思い、スタートさせました。やってみたら、改めて企業が地域や環境に貢献することの大切さに気づかされました。エコな整備工場、エコなお店としてさまざまな活動を積極的に推進していくようになったのは、そこからです。2010年の「エコアクション21」認証取得も、2022年の「SDGs行動宣言」の実施も、すべてはこのエコキャップの回収から始まっているんです。

社会と環境に役立つ小さなアクション

— 2008 年の「エコキャップ回収運動」への参加が、環境への取り組みの始まりだったというお話でしたが、参加までの経緯を教えてください。

今野：あのときは、静岡県のロータスクラブの集まりで当時の支部長が、「世間では 2006 年頃から社会貢献と環境保全につながる『エコキャップ回収運動』が盛んになっている。われわれもやってみてはどうか」という提案されたのがきっかけです。

— それで、各社が取り組んだということでしょうか？

今野：いや、足並みが揃ったわけではありませんでした。実はそのとき、「社会貢献するなら、そんなちまちました活動よりも、ダイレクトに現金を寄付したほうがいいんじゃないか」という意見もかなりありましたから。でも、後でこの運動のことを調べてみたら、すごく意義あるものだとわかったので、私は率先して取り組むことにしました。

— 回収運動に感じた意義を教えてください。

今野：まずは社会貢献のリアルさですね。この運動ではキャップをリサイクル資材として売却したお金を、アフリカや東南アジアにポリオワクチンを供与するための費用に充てていました。私はこれに共感しました。実は病死した私の兄は、幼い頃にポリオが原因で右足が不自由になり、長年苦労していました。その事実を知っていたので、「ポリオの害を減らす」という目的に強い共感を覚えたんです。

— そうでしたか。

今野：もう一つ、キャップを回収することが確実に環境への貢献になるということにも、取り組む意義を感じました。プラスチックのペットボトルのキャップは、ゴミとして焼却すると CO₂ が発生します。でも、回収してリサイクル資源に回せば、その分の CO₂ の発生を防げます。例えば、500 個のキャップのリサイクルは約 4000g の CO₂ の削減になるんです。つまり、

いつも何気なくペットボトルと一緒に捨てていたキャップを、捨てないで回収に回すだけで脱炭素につながるということです。誰でも無理せずできるという点で、これはすごくいい環境活動だなと思いました。

— 身の丈の活動であるということでしょうか？

今野：はい。当時はすでに脱炭素の必要性が叫ばれるようになっていました。それで私たちも脱炭素のためにやれることを探していたわけですが、あまりにテーマが大き過ぎてすぐに着手することがなかなか見つけられませんでした。そこに、このエコキャップ回収運動の登場です。これなら、うちのような小さな会社でも取り組めると思い、すぐに実践しました。お客さまとともに 447kg の CO₂ を削減

— 実際の回収運動は、どのように展開されたのでしょうか。

今野：まず、社内でエコキャップ回収運動の意義を説いて協力を呼びかけました。最初は理解も浅く消極的だった社員もいましたが、いつからか、みんな進んでやるようになりました。今では、外出先から帰ってきた社員のポケットの中には、必ずキャップが 1 個・2 個入っているようになりました(笑)。

— 回収ボックスはショールームに置いてあります。お客さまも参加してくださっているのですか？

今野：はい。社員たちの呼びかけを通じて参加していただいています。みなさん当初から「へえ、整備工場でも環境のことをやってるんだね」と、好意的な反応でした。法人のお客さまの職場で集めて持ってきてくださったり、小中学生がわざわざ店舗に立ち寄って回収ボックスにキャップを入れてくれたり、エコキャップ回収にお輪が広がりました。そんなこんなで、2008 年から 2022 年 8 月までの合計で約 61,103 個のキャップをリサイクルに回すことができています。これは計算上約 447kg の CO₂ 削減を行ったことになります。

— 御社はある意味、回収ボックスを起点にして地域の環境への取り組み基地のようになっているのですね。

今野：基地というほど大それたものではありませんが、私たちのお店と整備工場が環境活動に熱心であるという認識はお客様に広まっていると思います。それに、お客さまに環境活動の大切さを訴えることも、積極的にやっています。2010年から自社の活動やクルマの情報を発信する『Free Wave』というニュースレターを定期的に発行しているんですが、こうしたコミュニケーション活動によってお客さまに私たちの考えや活動をお伝えしています。

— 世間では、「エコキャップ回収運動」は以前ほど盛んではないようです。それでもこの運動を継続するお考えですか？

今野：続けます。私は、脱炭素は小さな環境活動の積み重ねの結果だと思っているんです。一人の人間にできることは本当に小さくて、「やってもやらなくても変わらない」とさえ思えます。でも、多くの人が小さなことをやり続けると、それは大きな成果になります。エコキャップ回

収運動は、そのことを教えてくれます。この運動はわが社の環境への取り組みの原点であるだけでなく、環境活動の本質を社員に植え付けてくれる大事な教育プログラムなんです。だから、やめることは考えたことがないです。世にペットボトルのキャップがあり、回収運動が存続している限り、取り組み続けるつもりです！



沼津中央自動車は「環境に優しい整備工場」とすると同時に、「次世代対応の整備工場」である。

整備作業時に発生した汚水を浄化する画期的な装置が稼動する一方で、たぶんどんな自動車整備工場よりもクルマのコンピュータ診断をするスキャンツールの活用が進んでいる。

そして、この2つは両立ではなく、連携している。沼津中央自動車社長の今野秀明さんへのインタビューは、それらの設備と体制が生み出すエコな効果についてうかがった。

バクテリアを使った油水分離槽システム

— 2007年から中部運輸局静岡運輸支局の「環境に優しい自動車整備事業者」の表彰を連続13回受けています。整備工場におけるエコな取り組みについて教えてください。

今野：先にお話ししたとおり、もともと「絶対に廃油を川に流さない」など、私の父が培ってきた地域に迷惑をかけない整備工場がベースとしてありました。私はそこに、環境に配慮した設備や体制を導入してきたわけです。

沼津中央自動車の環境活動の歩み

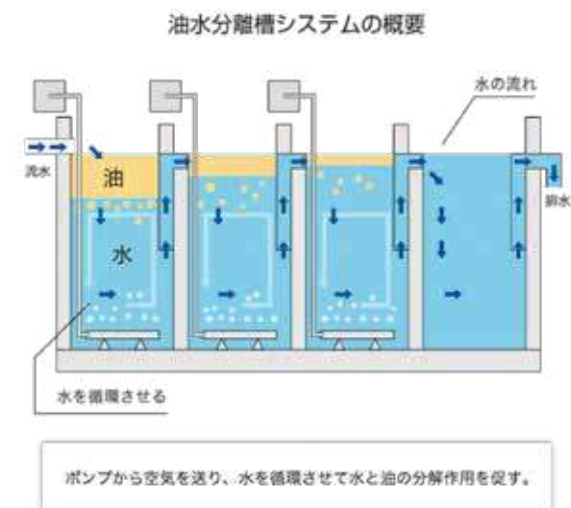
2006年	自社整備工場に油水分離槽システム設置
2007年	「環境に優しい自動車整備工場等の顕彰」表彰 (2012年から11年連続表彰/現在まで計13回の表彰)
2008年	「エコキャップ回収運動」参加(現在も継続中) エコ設備につながるコンピュータ診断用スキャンツール導入
2009年	「環境方針」制定 社員の環境教育を徹底
2010年	環境省「エコアクション21」の認証取得 (以降、毎年「環境経営レポート」を作成し認証を継続)
2012年	環境にいい次世代自動車に対応できる整備工場にリニューアル 「官導大支援基金運動」参加(継続中)
2013年	「コンピュータシステム診断認定店」認定 「ハイブリッド車 次世代自動車取扱い整備工場・診断機完備整備工場」認定
2017年	第20回環境コミュニケーション大賞に応募
2019年	第22回環境コミュニケーション大賞に応募
2020年	電子制御整備や自動運行装置の整備ができる「自動車特定整備事業」認証取得
2022年	日刊自動車新聞「整備事業者アワード2022 環境対策部門」受賞 「SDGs行動宣言」実施

— 具体的にはどのようなことをされたのでしょうか？

今野：2006年に導入した油水分離槽システムもその一つです。通常、自動車整備工場では、油分を含む排水の処理のためにグリーストラップ（グリース阻集器）を設定して油と汚泥を除去して排水を下水に流します。溜まった油と汚泥は、定期的に業者さんに来てもらい回収してもらいます。以前は、うちもそうでした。けれども、グリーストラップだと油を完全に除去できない場合があります。それで、もっと完全に油を除去できるものはないかと探していたんです。

— 油水分離槽システムは、どういう仕組みで油分を含む排水を浄化するのでしょうか？

今野：バクテリアを使います。自然界には油を食べるバクテリアがたくさんいるんですよ。そのバクテリアに槽の中で油を食べてもらうんです。工場から出る排水は全部、油水分離槽システムを経由する設定になっています。槽は4槽構造で、その内の3つの槽ではときどきポンプから空気を送って水を循環させて、水と油の分離を促進します。それから1日に2回、微生物活性化剤を投下する仕組みになっています。それによって、目には見えませんが槽の中では油を食べるたくさんのバクテリアが活性化し、排水に含まれる油を食べてくれるんです。つまり、油はなくなってしまいうけです。汚泥は沈殿して残るので、それは業者さんに回収してもらいます。水は排出しても問題ないレベルに浄化されるので、側溝にその水を流しても油膜は一切浮かびません。



— 画期的なシステムだと思います。また、整備工場自体もたいへんきれいで、整っている印象を受けました。

今野：それは、日ごろから整理・整頓・清掃を徹底している成果だと思います。それと、2012年に整備工場をリニューアルした際に、コンクリートの床を「磨き床」にしたことも多分に影響しています。この床は、表面が大理石のようになっているので油がまったく染みないし、美観が保たれます。



スキャンツールを活用して
「エコ整備」を推進

— 御社のホームページに「エコ整備」という記載がありますが、これはどういうことでしょうか？

今野：最近、多くの自動車整備工場が、クルマに搭載されているコンピュータ（ECU）の診断を行うスキャンツールを所持していると思います。ただ、その使い方は、クルマの状態が思わしくないときに「故障診断」ということがほとんどだと思います。当社では「故障診断」にもスキャンツールを使用しますが、それよりも点検・車検の入庫時に行う「予防点検整備」にスキャンツールをフル稼働させています。当社はスズキのアーリーナ店として営業していますので、点検・車検で入庫するスズキ車にはすべてこれを実施していますし、他メーカーのクルマの場合でも汎用のスキャンツールで診断することを基本にしています。このスキャンツールによる「予防点検整備」を軸としたクルマの整備を、私たちはエコ整備と言っています。

— スキャンツールを使って「予防点検整備」を行うことは次世代車対応には良いと思いますが、どのような点がエコなのでしょう？

今野：今のクルマは、エンジン車にも電動車にもあらゆる箇所にコンピュータが組み込まれています。スキャンツールを使うと、それらのコンピュータのデータを覗き込むことができます。過去の不具合のチェックもできますし、お客さまのクルマが適正なコンディションであるかどうかの判断もできます。もし、異常値などがでた場合には、すぐにお客さまにお伝えし、お客さまの了承を得て適正な状態を回復するよう努めています。そのようにして、クルマの状態を常に適正に保つことができれば、排気ガスに含まれるCO₂を抑え、燃費の向上につながります。そうした意味で、エコであると考えています。

— スキャンツールを使うことで、お客さまにもエコ整備のメリットをアピールできるような気がします。

今野：まさにそうだと思います。この試みは、メカニックのミーティングの中で「スキャンツールでクルマの問診をしよう」という提案から始まりました。だから、メカニックはお客さまにクルマをお渡しする際に、「クルマのコンピュータの点検をさせていただきました。異常値などは残っておりませんでした」といった説明を必ず行います。すると、お客さまから「クルマのコンピュータの点検までしてくれたの。ありがとう」といったあたたかい言葉をいただくこともよくあり、私たちもお客さまの満足度の高さを実感しています。環境経営では、お客さまを巻き込んでいくことが重要です。私たちがエコ整備を日頃から実践し、お客さまにご説明しているという前提があることによって、お客さまにエコ・ドライブをお勧めすることもスムーズに行えています。



— スキャンツールを使ったコンピュータ診断とエコのつながりがよくわかりました。

今野：戦後すぐの時代、腕に自信があった父は当時の壊れやすいトラックに「予防整備」を施すことで故障を未然に防ごうと努めました。コンピュータ化への対応とCO₂削減・環境保全が求められる現代において、私たちは技術力とスキャンツールによってこの時代に即した「予防整備」を遂行しているというわけです。

— 環境経営・環境活動に「予防整備」のDNAが継承されているんですね。

今野：私たちがそういう歴史を持っていることは、一つの強みだと思っています。それに加えて、新しい歴史を創り続けていくことの重要性も感じています。たとえば、昨今では、電子制御装置整備や自動運行装置の整備ができる「自動車特定整備事業」への対応が必要とされています。当社は2020年にその認証を取得しました。これからは、スキャンツールを使いこなす整備技術を持った整備士がますます必要になるわけですが、当社ではすでにスキャンツールを使った「予防点検整備」を全面展開していることによって、新人の整備士も日々経験を積んでいます。これも環境経営の生んだメリットの一つだと言えるでしょう。



認証の取得はエコ企業の証明

環境省が策定したガイドラインに基づいて、環境経営を行う企業を認証・登録する「エコアクション 21」。沼津中央自動車は、この認証・登録を 2010 年から 12 年間に渡って継続的に維持している。



— まず、基本的な質問になりますが、「エコアクション 21」はいったいどういう制度ですか？

今野：環境省が中小企業向けに行っている環境経営の認証・登録制度です。中小企業が環境経営に取り組みようとしても、何をどうしたらいいのかわからないというのが実情ですよね。でも、「エコアクション 21」にはガイドラインが示されているので、中小企業はそれを基にして自社の環境経営を組み立てることができます。そして、その活動内容や成果を環境省の審査員が審査し、判定の結果、「ガイドラインに沿った環境経営が適正に行われている」と認められれば、「エコアクション 21」の中央事務局に認証・登録されることになります。具体的には、認証・登録証が発行され、「エコアクション 21」のロゴマークが使えることになるわけです。

— 「エコアクション 21」の最初の認証取得が 2010 年ということは、2008～2009 年くらいにきっかけがあったのでしょうか？

今野：最初は 2007 年だったと思いますが…、ロータスクラブで「エコアクション 21 という制度を活用しよう」という動きがあって、静岡県支部でも説明会が開催されました。ところが、そのときにはよく理解できなくて、一度リタイアしました。それから、2009 年に沼津市役所で市内の中小企業向けの説明会があるということで参加したところ、環境へ考え方が進化したからでしょうか、スーッと頭に入ってきたんです。それでまず当社の「環境経営方針」を策定しました。

そして、その「環境経営方針」に則って環境活動を整理して、体制を明確にして実践するとともに成果を記録し、翌 2010 年に審査の申請をして認証を取得することができました。



社員の成長や意識の変化が大きなメリット

— 「エコアクション 21」に取り組む上でのポイントはどのようなものですか？

今野：これは私のとらえ方ですが、大括りでいえば三つのポイントがあると思います。一つ目は自社なりのしっかりした環境経営方針を打ち出すということ、二つ目は環境経営方針に沿った PDCA（Plan、Do、Check、Act）を日常的に実施するという、三つ目は PDCA の実践記録として『環境経営レポート』を作成・公表すること、です。

— 一般的な話として、「エコアクション 21」で認証・登録されると、どんなメリットがあるのでしょうか？

今野：まず、会社の信頼性向上やイメージアップを図ることができます。また、環境経営を取り入れ条件としている大企業とのお付き合いが行いやすいというメリットもあります。さらには、金融機関の融資を受ける際などにも評価してい

ただき、低利子融資制度の利用など利息負担を抑えられる可能性なども言われています。そう考えると、環境面だけにとどまらず、会社の経営全体に良い効果があると言えると思います。けれども、私はそうしたことよりも、社内の社員の成長や意識の変化などにより大きなメリットを感じています。

— それはどのようなことでしょうか？具体的に教えてください。

今野：「エコアクション 21」に取り組み始めた当初は、環境活動に取り組む意識が社内で共有されておらず、「先月の電気代が去年より高いぞ。必要ない電気は消そう！」と言うくらいでした。要するに、経費節減の一方法と思ってやっていた節がありました。それが、「エコアクション 21」の取り組みを継続する中で、専門家の方から指導していただくうちに、「環境」や「持続的な社会」のために自分たちは何ができるのかということに前向きに考え、社内で意見交換して、実践するようになりました。これは大きな変化ですし、社員個人としても会社全体としても大きな成長です。

— ということは、現在、御社では「エコアクション 21」の活動を社員の皆さんが自主的にやっておられるということですね？

今野：そうです。そして、その取り組みと精神は先輩から後輩にごく自然に受け継がれています。私は、皆がそういう社員になってくれたことが、「エコアクション 21」の真のメリットだと思っています。

地道な努力で紡ぐ『環境経営レポート』

— 今お話しいただいた社内の変化は一朝一夕に具現化するとは思えませんが、何かキーとなる取り組みがあるのでしょうか？

今野：それは、この『環境経営レポート』を社員皆がかかわって作成し、公開しているということではないかと思います。「エコアクション 21」に取り組む会社は、必ず『環境経営レポート』を作成しますが、それは審査を受ける際に必要で

あり、認証・登録にあたって自社の『環境経営レポート』を中央事務局のホームページで公開しなければいけないと定められているからです。中には『環境経営レポート』の作成に力を入れておられる会社があるかもしれませんが、多くの場合、「認証・登録にあたって必要だから」という受け身の考えを持ってしまい、ページ数にしても数ページ程度だと思います。



印刷・製本した沼津中央自動車の『環境経営レポート（2019 年版）』

— 御社のホームページ上に公開されている 2021 年の『環境経営レポート』を拝見したところ、30 ページのボリュームでした。

今野：そのボリュームになるのは、自分たちで考え、実践している活動を目に見える形にしたという思いが社内にあることと、さらには当社の環境活動をお客さまにも見ていただくという考えで作成しているからです。CO₂ 排出量の削減や廃棄物排出量の削減、水使用量の削減などの基本的な項目のほか、これまでにお話したエコキャップ回収運動、油水分離槽システム、あるいはエコ整備などについても記載しています。この『環境経営レポート』を作成することで、社員一人一人が環境活動を自分ごととしてとらえることができるようになったと思います。

— 内容がとてもしっかりしていることにも驚かされました。取り組み内容がわかりやすく紹介されており、成果についてもきっちり数字で示しています。例えば 2021 年度版では、CO₂ 排出量について基準値（2019 年）の排出量 34,376kg-CO₂ に対して、削減率をマイナス 2%、目標値を 33,688kg-CO₂ に設定して活動した結果、32,493kg-CO₂ となり削減比率はマイナス 4%となった、などと書かれています。ここまでやるのは大変でしょうね。

今野：大変です(笑)。当社はエネルギー消費が多いクルマを扱う商売だから削減すべきものが少なくなく、自然と項目が多くなるんです。ただ、データの算出自体はそう難しいことではないんですよ。「エコアクション 21」が定めるいろいろな公式に当てはめて、自社の活動を数値化するわけですが、担当者はもう会得しています。大事なことは一人一人が毎日・毎週・毎月の実績をしっかりと把握して、記録すること。そして、少しでも良い結果が出るように地道な努力を積み重ねることです。その点については、エコキャップの回収運動がものすごくいい経験として作用していると思います。



— ところで、2021 年の削減目標においてはいくつかの項目で未達成となっています。これはなぜでしょうか？

今野：言い訳になるかもしれませんが……われわれは 12 年間に渡り新たな目標値を設定してきたため、2021 年の各項目の目標値はこれまでで最も高いものとなりました。ここまでくると、できることについてはやり切ったという感が強く、すべての目標を毎年達成し続けることはなかなか困難です(苦笑)。だからといって諦めているわけではなく、来年度もまた PDCA を回して環境経営・環境活動を続けていきます。「エコアクション 21」の取り組みは、そういう粘り強く地道なものであると思っています。

『環境経営レポート』を冊子にして配布・説明する

— 御社の環境への取り組みでは、お客さまへのコミュニケーション活動も重視されているそうですね。

今野：とても大事なことだと思っています。私は、「想いの発信」と言っているのですが、環境に

ついて私たちがどのような気持ちで取り組んでいるのか、それを発信することがお客さまの共感を生む第一歩だと思っています。例えば「エコキャップ回収運動」では、お客さまに運動の意義をご理解いただきキャップ回収にご協力いただいています。また、エコ整備では、スキャンツールを使ったコンピュータ診断についてご説明してご理解いただいています。

— やはり「エコキャップ回収運動」への参加の呼びかけがきっかけになったのでしょうか？

今野：振り返ってみると、そうなりますね。それともう一つ、2009 年に当社の「環境方針」を定めて、翌 2010 年に「エコアクション 21」の認証を取得したとき、「環境方針」を公開したことが環境についてのコミュニケーション活動の原点になっているように思います。「環境方針」をポスターにして店内に開示してお客さまにもご覧いただくことで、「当社は環境への取組みを積極的に行っています」ということをお伝えしたわけですね。今では、自分たちの考えや姿勢をお伝えすることが大事だとわかってはいますが、それは「環境方針」の公開からコミュニケーション活動を積み重ねて会得したことです。

— コミュニケーション活動としてどんなことに力を入れているのでしょうか？

今野：一番の柱は、「エコアクション 21」の『環境経営レポート』を冊子にしてお客さまに配布し、説明することです。当社では、毎年「お客さま感謝祭」を開催してきました。この 3 年間はコロナ禍で開催を断念しましたが、「お客さま感謝祭」は当社にとって大事なお客さまとのコミュニケーションの場です。その機会に『環境経営レポート』の冊子をお渡ししながらお話しすることで、ものすごく理解していただけた実感があります。



環境活動と点検・整備はつながっている

— お客さまにとって、自動車整備工場の環境活動は、クルマの購入や点検・整備といったことよりも関心が薄いのではないかと考えていたのですが、そうではないということでしょうか？

今野：ええ、環境活動への関心は高いですね。だからこそ、お客さまへのコミュニケーション活動が重要なんです。当社では、個人・法人いずれのお客さまにもエコ・ドライブを呼びかけ、実践をサポートしていますが、お客さまがエコ・ドライブについて聞く耳を持ってくれるのは、『環境経営レポート』を通して当社の環境活動を知ってくださっているということが大もとにあると思います。

— お話をうかがっていて、環境活動とクルマの点検・整備がつながっているということがよくわかりました。

今野：当社は法定点検の実施率が70%くらいです。100%にしたいけれどもお客さまにもいろいろお考えがあるので70%くらい。それでも、自動車整備業界としては実施率が高い方だと思います。そうできているのは、環境活動とコミュニケーション活動が効いているからです。当社のエコ整備でクルマをいい状態に保ち、お客さま自身がエコ・ドライブを行って、燃費が良くなる……その流れから、お客さまは自然に「法定点検はやったほうがいいよね」と思ってくださっていると思います。

様々なツールで具体的なエコ活動を報告

— 定期発行しているお客さま向けのニュースレター『Free Wave』や、ホームページやブログなどで、環境への取り組みを情報発信していらっしゃるんですね。

今野：はい、それは意識的にやっています。先にお話した「想いの発信」は、一度やったらそれでいいというものではないんです。継続的にやっていくというか……むしろ、常にやっていくという方が的を射ているかもしれません。小さな環境活動を毎日積み重ねていくと同時に、小さなコミュニケーション活動も毎日のごとく行っていく必要があります。それが、環境への取り組みの輪を形づくる秘訣だと思います。



— ホームページの更新一つとっても大変だと思いますが、御社のコミュニケーション活動を行い続けるには相当パワーが必要な気がします。

今野：そうかもしれませんが、環境活動と同じく、いまでは社内に浸透してごく自然にコミュニケーション活動を行えるようになってきました。それに、常にコミュニケーション活動を行うことでお客さまの環境意識とニーズが高まり、それが逆にわれわれを刺激し、取り組みをより活性化させてくれるという効果もあります。

— そして、エポックメイクな出来事は大きく訴求するわけですね。店頭で昨年受賞した日刊自動車新聞主催の「整備事業者アワード 2022 環境対策部門」のポスターが掲示されていました。

今野：あれは、内にも外にもいい効果をもたらしてくれたと思います。業界内の受賞ニュースですが、一般のお客さまにもけっこう響いています。多くのお客さまから、「環境にいい整備工場に愛車の面倒を見てもらえるのは嬉しいことだ」と喜んでいただきました。そういう言葉を聞くたびに、「時代の風とお客さまのニーズは大きく変わったんだな」としみじみ実感します。

— 御社は2022年に「SDGs行動宣言」を行って、



SDGs が目指すところは「エコアクション 21」と同様

国連が主導する、持続可能な社会を実現するための国際的な目標である SDGs (Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標)。日本でも、2020 年前後から多くの自治体、企業、学校などが「SDGs 行動宣言」を行い、それぞれのゴールに向けて、具体的な取り組みを行うようになってきている。

沼津中央自動車は 2022 年に「SDGs 行動宣言」を行った。その中身は、これまで積み重ねてきた環境経営・環境活動をベースにした、地に足のついた取り組みである。



沼津中央自動車の SDGs 達成に向けた取り組み

SDGs への取り組みを表明されました。ところで、SDGs について意識したのはいつ頃のことですか？

今野：2019 年に、「エコアクション 21」に関して専門家の方からアドバイスいただいた際に、SDGs についてもあらましを聞きました。その時の話では、持続可能な社会をつくるという SDGs と、「エコアクション 21」が目指すところは基本的には同じであり、「エコアクション 21」の認証を継続的に取得している会社は、すでに SDGs に取り組んでいると考えていいということでした。

— でも、2019 年には「SDGs 行動宣言」を行うことはされませんでした。これはなぜでしょうか？

今野：私たちは、すでに「エコアクション 21」に取り組んでいて、そこになんかなりの手ごたえを感じていました。自分で言うのもなんですが、「エコアクション 21」の活動を継続することはかなり意識しないとできないことですし、また定期的に審査もあります。だから、2019 年当時の考えとしては、SDGs まで広げて、「エコアクション 21」への意識が薄まってはいけないということだったと思います。

— その考えが変わったのは、何かきっかけがあったのでしょうか？

今野：一つのきっかけではなく、いろいろなことから「世の中の空気が変わってきた」と感じました。ロータスクラブが SDGs について検討し、株式会社ロータスと株式会社ロートピアは「SDGs 行動宣言」を行いましたし、当社と同じようにロータスクラブに加盟する全国の自動車整備工場が SDGs に取り組む姿勢を打ち出す会社が増えてきました。

— 自動車整備業界で目に見える変化が起きたわけですね。

今野：そうです。さらには、金融業界からのアプローチがありました。地元の銀行が信用保証協会と一緒に、SDGs に積極的に取り組む会社を後押しする活動を始めました。具体的なインセンティブとしては、新規に貸し出し枠を設けて、金利を安くしたり、保証料も検討するといった内容が入っていました。それで、「ああ、これはいよいよ SDGs の時代なんだな」と実感し、2022 年に「SDGs 行動宣言」行ったわけです。



確実に達成するために身の丈にあった取り組みを

— 御社の「SDGs行動宣言」には7つのゴールが掲げられています。

今野：はい。7つのゴールは、番号順に挙げると「6 安全な水とトイレを世界中に」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任つかう責任」「13 気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさを守ろう」となっています。当社では、これらのゴールを「地球温暖化への取組」「環境に配慮した製品・サービスの提供」「持続可能な経営」といった大きな項目の中に置き、その実現のために具体的な取り組みを進めているんです。

●地球温暖化への取り組み

事業活動で発生するCO₂量を明確に数字で把握し、削減に努めています。電力や燃料などの、数字ではかることができる削減だけでなく、一般廃棄物などをさらに分別してリサイクル化を進め、焼却する廃棄物の削減を続けます。

●環境に配慮した製品・サービスの提供

お客さまの車の点検・車検時にはスキャンツールを使いECUを確認し、適切な状態を維持し燃費の向上につなげます。2050年カーボンニュートラルに向けEV化していく車の変化に対応できる設備と技術教育を行います。

●持続可能な経営

SDGsを経営活動に取り込みます。代表者を中心に、社員全員に取り組みの浸透を行い、社外にも目標・実績を開示してコミュニケーションすることで「環境の取り組みの輪」を広げる活動を続けます。

— 具体的な取り組み内容はこれまでのお話と合致していて、ぶれていませんね。

今野：それぞれの取り組み内容は、今までやってきたことの継続とその展開であり、自分たちが達成できるであろうことを挙げています。先にもお話ししましたが、こうした取り組みは毎日コツコツやり続けることが大事です。レベル

の高い取り組みを表明しても、実際にできなければSDGsに貢献することはできません。もともとSDGsは、自ら手を挙げるスタイルであり、審査がないという緩さもあるので、どうしても宣言が空手形になりやすい側面があります。私たちは、そういう中途半端なことは避けたいので、宣言する以上は「身の丈にあったことをしっかりやり続けて、必ずゴールを達成する」という覚悟を持っています。

— やはり本気で取り組むことが大事なのですね。

今野：そこの気持ち次第で結果が違ってくると思います。それと、「SDGs行動宣言」をしたからには、7つのゴール以外の10のゴールについても無視してはいけなく考えています。いくら7つのゴールが達成できたとしても、ほかの部分でマイナスが出るというのはやはりよろしくないでしょう。宣言に対して不誠実な感じがします。ですから、当社としては、7つのゴール以外の10のゴールについてもマイナスがない状態にしておきたいと考えています。

— 今、学校教育でもSDGsについて学ぶということですが、SDGsによる社会の変化はどのようなものになると考えられますか？

今野：SDGsの浸透によって、環境への取り組みは今や「当たり前」のことになっていると改めて実感しています。そうすると、環境を意識しない仕事をしている会社は、周囲からマイナスイメージを持たれてしまうわけです。これは、10年前からすると、大きな意識の転換です。また先を考えると、現時点で当社が取り組んでいることが、「最低限」ということになるのではないかと、という予感がしています。

— その兆しは何か感じていらっしゃいますか？

今野：例えば、求人活動のときに、当社が「エコアクション21」に取り組み、「SDGs行動宣言」を行っていることが、本人はもちろん学校の先生や家族の皆さんに好意的に受け止められ、前向きに入社を検討してもらえる大きな要素になっています。そういうときに、「環境経営をやってきてよかった」としみじみ思います。

地域の自然を守れば 地球環境の保全につながる

— 締めくくりとして、環境経営・環境活動に取り組むポイントを挙げていただけますか？

今野：当社では、月に1回、全体会議で環境の話をします。例えば、「うちの会社が仕事をして1年間に排出する二酸化炭素は34tです。それを木に吸収してもらうには、杉の成木2414本が必要です」……といった話です。以前は、私にしてもそんなことを考えたことはありませんでした。けれど、自分たちが環境活動を行う中で、多くのことを知りました。環境について自分事として考えることが大事だと思っています。

— 今野さんご自身の、環境活動に取り組む原点は何でしょうか？

今野：地元の美しい自然環境を守りたいという想いは結構強いです。例えば、沼津の隣町の清水町には富士山の麓のきれいな湧水を水源とする柿田川が流れ出ています。その湧水量は東洋一だそうです。柿田川は当社の3kmほど上流で伊豆天城を源とする狩野川と合流し、当社の横を流れていき、やがて駿河湾に至ります。その柿田川は沼津市の水源地で、沼津市民は皆、柿田川の水を飲んで生活してきたので「きれいな水を守りたい」という気持ちがあります。当然、私もその一人です。また、私は幼いころから家の近くの川辺で遊んだりして親しんできたので、この川を汚すのはあり得ない事だと思っています。父から受け継いだ「きれいな水を守りたい」という想いからきている部分が多分にあります。



柿田川

— 地域愛、地元愛が環境への取り組みを生んでいるということですね。

今野：そう、地球全体から見れば非常に狭い視野であると言えるかもしれません(笑)。でも、私はこれでいいと思っています。世界的に大きな課題であるカーボンニュートラルにしても、結局は地元愛に基づいた小さな取り組みの集積があって実現できるものだと考えるからです。つまり、我々のような中小企業1社だけがCO₂を少なくしたいと頑張ったところで、地球規模の効果はゼロに等しいわけですが、100社、1000社、10000社が地元の空気のことを考えた取り組みを行い、それが累積していけば相当大きな効果が望めるのではないのでしょうか。

— なるほど。今後もその方向性で取り組みを続けられるのですか？

今野：続けていきます。そして、お客さまをはじめ当社を取り巻く方々からの共感を得て、環境活動の輪を広げていきたいと思っています。



当社上空から沼津市街地方向を撮影

— お店紹介 —

1946(昭和21)年、今野嘉男氏(現社長の父)が静岡県蒲原町(現静岡市)にイマノエンヂンを創業。1954(昭和29)年に現所在地の沼津市に移転し、沼津中央自動車株式会社として法人設立。地域に貢献する自動車整備工場として発展する。1977(昭和52)年に全日本ロータス同友会(ロータスクラブ)に加盟。自動車販売事業では、2001(平成13)年に「スズキアリーナ沼津大岡」を開店。1997(平成9)年に今野秀明氏が社長に就任した後、2000年代から会社をあげて環境への取り組みを推進。2010(平成22)年に環境省の「エコアクション21」の認定を取得し、2022(令和4)年には日刊自動車新聞の「整備事業者アワード2022 環境対策部門」を受賞、また「SDGs行動宣言」を行った。

ロータスタウン記事より

沼津中央自動車株式会社 経営理念

「お客様の笑顔」が「私たちの幸せ」につながるように、
「誠実な心・想いの共有・奉仕の実践」を日々の努めとします。

- ・ 私たちは常にお客様の立場に立って考え行動し、
私たちと触れ合う全ての人たちに「誠実な心」で接します。
- ・ 将来に対しての「想い」を全員で共有し、
より良い生活環境を作り上げていきます。
- ・ 社会に対して、そして社内においても、
お互いに尊敬し助け合い「奉仕の心」をもって、自らの行動にします。

「幸せになりたい」と思う事は、人として当然の事です。またその為に会社を継続し変革していく時には、さまざまな意思決定を迫られることもあります。そのとき、抛りどころとなるのがこの理念です。経営理念があればこそ、私たちは仕事を通じた幾多の苦難を乗り越えることができ、「お客様と共に歩む持続企業にする」という目的も共有できます。常に助け合い、力を合わせて努める、それが私たちの「幸せ」に通ずることです。



監修：メディアデザイン沼津中央

ホームページ作成・各種印刷物など、
地域・業界で突き抜けるブランド作りをサポートします。



苦情・問合わせ・受付票

苦情・問合わせをされた方の情報		No.	
ふりがな			
氏名 (事業所名)			
住所			
連絡先	自 宅		
	勤務先		
	携 帯		
分類	1. 苦情		2. 問い合わせ
内容			
受付担当		受付年月日	

原因調査 対応内容

原因	調査日		担当者	
対応	対応日		担当者	
完了	確認日		担当者	